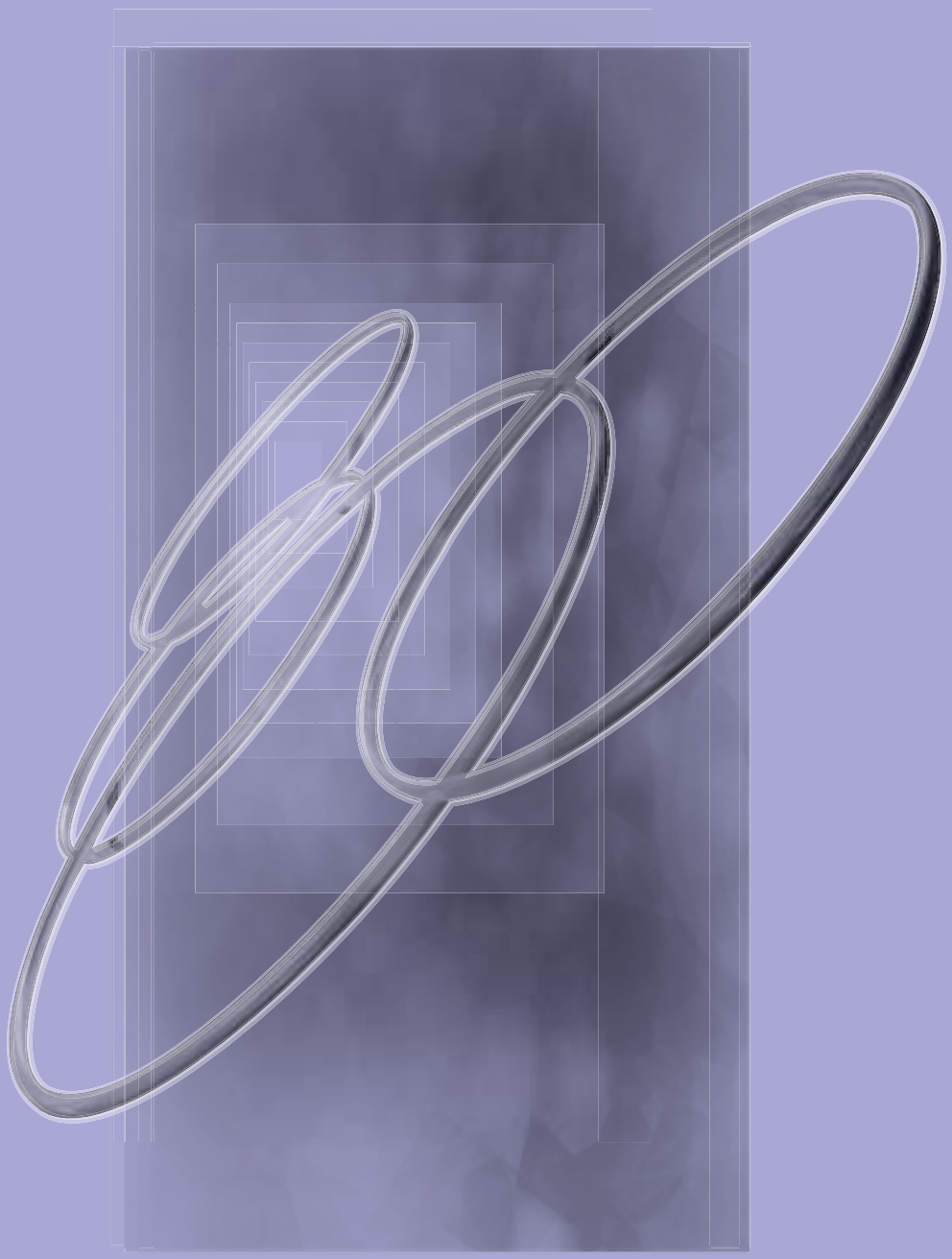
2007年度

シラバス
国際教養学部



獨協大学

国際教養学部言語文化学科
シラバス
【総合目次一覧】

◆ 【2007年度】入学生用

学則別表・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ－1～2

学則別表の見方・・・・・・・Ⅰ－3

科目特性表・・・・・・・・・・・Ⅰ－4～6

授業科目目次・・・・・・・・・Ⅰ－7～9

【シラバスの見方】

「シラバス」は、科目の担当教員が、学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。
学生諸君は、シラバスを良く読み、計画的な履修登録をしてください。

本シラバスは、２００７年度以降入学生用の「国際教養学部言語文化学科」授業科目シラバスです。

入学年度により履修できる科目が異なるので、各自の入学年度に該当する目次を参照してください。

＊履修不可学科の表記

外：外国語学部 養：国際教養学部言語文化学科 経：経済学部 法：法学部

独：ドイツ語学科
英：英語学科
仏：フランス語学科
言：言語文化学科
言（＊１）：言語文化学科、スペイン語履修者
言（＊２）：言語文化学科、中国語履修者
全：言語文化学科以外

済：経済学科 律：法律学科
営：経営学科 国：国際関係法学科

適用年度＝その科目が開講されるカリキュラム(入学年度によ

	① 科目名	② 担当者
③ 講義目的、講義概要	④ 授業計画	
春学期	第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週	
⑤ テキスト、参考文献	⑥ 評価方法	

☆上段は、春学期科目です。

①2007年度入学生用の科目名を記載しています。
カリキュラムよっては開講されない科目もありますので、
自分の適用年度が含まれているか必ず確認してください。

② 担当教員氏名
③ 授業の目的や講義全体の説明、
学生への要望が記載してあります。
④ 学期の授業計画についての欄です。
各週ごとに講義するテーマが
記載してあります。
⑤ 授業で使用するテキストや
参考となる文献が記載してあります。
⑥ 春学期完結科目は春学期終了時に成績評価が出ます。
秋学期完結科目と通年科目は秋学期終了時に
成績評価が出ます。

	① 科目名	② 担当者
③ 講義目的、講義概要	④ 授業計画	
秋学期	第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週	
⑤ テキスト、参考文献	⑥ 評価方法	

☆下段は、秋学期科目です。

各項目については、春学期と同一です。

〔注意〕
○定員
科目の中には定員制のものがあります。
それぞれ適用年度の「授業時間割表」を参照してください。

学則別表(2007年度入学者用)

科目群	部門	科目	単位	必修	選択必修	選択
必須教養科目群	学科基礎	基礎演習a	2	2		
		基礎演習b	2	2		
		言語文化論	2	2		
		哲学Ⅰ	2	2		
		現代世界論	2	2		
		哲学Ⅱ	2	2		
	外国語	英語Ⅰ	1	4		
		英語Ⅱ	1	4		
		英語Ⅲ	1	4		
		英語Ⅳ	1	4		
		英語Ⅴ	1	2		
		英語Ⅵ	1	2		
		スペイン語Ⅰ	1		4*	
		スペイン語Ⅱ	1		4*	
		スペイン語Ⅲ	1		4*	
		スペイン語Ⅳ	1		4*	
		スペイン語Ⅴ	1		2*	
		スペイン語Ⅵ	1		2*	
		中国語Ⅰ	1		4*	
		中国語Ⅱ	1		4*	
		中国語Ⅲ	1		4*	
		中国語Ⅳ	1		4*	
		中国語Ⅴ	1		2*	
		中国語Ⅵ	1		2*	
		韓国語Ⅰ	1		4*	
		韓国語Ⅱ	1		4*	
		韓国語Ⅲ	1		4*	
		韓国語Ⅳ	1		4*	
		韓国語Ⅴ	1		2*	
		韓国語Ⅵ	1		2*	
選択教養科目群	外国語演習科目群	英語演習Ⅰ	2			
		英語演習Ⅱ	2			
		スペイン語演習Ⅰ	2			
		スペイン語演習Ⅱ	2			
		中国語演習Ⅰ	2			
		中国語演習Ⅱ	2			
		韓国語演習Ⅰ	2			
		韓国語演習Ⅱ	2			
	スペイン・ラテンアメリカ研究科目群	スペイン・ラテンアメリカ研究入門Ⅰ(スペイン)	2			
		スペイン・ラテンアメリカ研究入門Ⅱ(ラテンアメリカ)	2			
		スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅰ(ラテンアメリカの歴史と社会)	2			
		スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅱ(ラテンアメリカの政治と社会)	2			
		スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅲ(ラテンアメリカの経済と社会)	2			
		スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅳ(スペイン語圏の言語文化)	2			
		スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅰ(ラテンアメリカ近現代史)	2			
		スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅱ(ラテンアメリカ国際関係論)	2			
		スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅲ(ラテンアメリカ経済発展論)	2			
		スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅳ(スペイン語学)	2			
		スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅴ(ブラジル研究)	2			
		スペイン・ラテンアメリカ研究情報収集法	2			
		スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅰ(スペイン語で聞くスペイン・ラテンアメリカ研究a)	2			
		スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅱ(スペイン語で聞くスペイン・ラテンアメリカ研究b)	2			
		スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅲ(スペイン・ラテンアメリカの芸術文化)	2			
		スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅳ(スペイン・ラテンアメリカの社会文化)	2			
	中国研究科目群	中国研究入門	2			
		中国研究Ⅰ(中国社会論)	2			
		中国研究Ⅱ(中国の思想・文学)	2			
		中国研究Ⅲ(中国史a)	2			
		中国研究Ⅳ(中国史b)	2			
		中国研究各論Ⅰ(現代中国論a)	2			
		中国研究各論Ⅱ(現代中国論b)	2			
		中国研究各論Ⅲ(日中交流史)	2			
		中国研究各論Ⅳ(中国の芸能・芸術)	2			
		中国研究各論Ⅴ(言語文化論)	2			
		中国特殊研究Ⅰ(日中比較文化論a)	2			
		中国特殊研究Ⅱ(日中比較文化論b)	2			
		中国特殊研究Ⅲ(中国文学研究古典)	2			
		中国特殊研究Ⅳ(中国文学研究現代)	2			
選択教養科目群	韓国研究科目群	韓国研究入門	2			
		韓国研究Ⅰ(韓国史)	2			
		韓国研究Ⅱ(韓国社会論)	2			
		韓国研究Ⅲ(韓国の言語文化)	2			
		韓国研究各論Ⅰ(韓国社会各論a)	2			
		韓国研究各論Ⅱ(韓国社会各論b)	2			
		韓国研究各論Ⅲ(日韓交流史)	2			
		韓国研究各論Ⅳ(韓国文化各論a)	2			
		韓国研究各論Ⅴ(韓国文化各論b)	2			
		韓国研究各論Ⅵ(韓国文化各論c)	2			
		韓国研究情報収集法	2			
		韓国特殊研究Ⅰ(日韓比較文化論a)	2			
		韓国特殊研究Ⅱ(日韓比較文化論b)	2			
		韓国特殊研究Ⅲ(文献読解)	2			
	日本研究科目群	日本研究Ⅰ(日本文学古典)	2			
		日本研究Ⅱ(日本文学現代)	2			
		日本研究Ⅲ(日本史a)	2			
		日本研究Ⅳ(日本史b)	2			
		日本研究Ⅴ(日本経済論a)	2			
		日本研究Ⅵ(日本経済論b)	2			
		日本研究Ⅶ(日本文化論)	2			
		日本研究各論Ⅰ(民俗芸能)	2			
		日本研究各論Ⅱ(企業経営)	2			
		日本研究各論Ⅲ(地域文化)	2			
		日本研究各論Ⅳ(古典芸能)	2			
		日本特殊研究Ⅰ(民俗学)	2			
		日本特殊研究Ⅱ(文献読解)	2			
		日本特殊研究Ⅲ(写本を読む)	2			
		日本特殊研究Ⅳ(碑文を読む)	2			
	多言語間交流研究科目群	多言語間交流研究Ⅰ(言語学a)	2			
		多言語間交流研究Ⅱ(言語学b)	2			
		多言語間交流研究Ⅲ(英語学a)	2			
		多言語間交流研究Ⅳ(英語学b)	2			
		多言語間交流研究Ⅴ(英語圏の文学)	2			
		多言語間交流研究各論Ⅰ(応用言語学)	2			
		多言語間交流研究各論Ⅱ(第二言語習得)	2			
		多言語間交流研究各論Ⅲ(英語圏の小説a)	2			
		多言語間交流研究各論Ⅳ(英語圏の小説b)	2			
		多言語間交流研究各論Ⅴ(英語圏の詩a)	2			
		多言語間交流研究各論Ⅵ(英語圏の詩b)	2			
		多言語間交流研究各論Ⅶ(英語圏の演劇a)	2			
		多言語間交流研究各論Ⅷ(英語圏の演劇b)	2			
		多言語間交流研究各論Ⅸ(国際語としての英語)	2			
		多言語間交流研究各論Ⅹ(多言語環境と英語)	2			
		多言語間交流研究各論ⅩⅠ(英語圏の文化)	2			
		多言語間交流研究各論ⅩⅡ(英語圏事情)	2			
		多言語間交流特殊研究Ⅰ(翻訳通訳論・英語)	2			
		多言語間交流特殊研究Ⅱ(翻訳通訳論・中国語)	2			
		多言語間交流特殊研究Ⅲ(翻訳通訳論・スペイン語)	2			
		多言語間交流特殊研究Ⅳ(翻訳通訳実習・英語)	2			
		多言語間交流特殊研究Ⅴ(翻訳通訳実習・中国語)	2			
		多言語間交流特殊研究Ⅵ(翻訳通訳実習・スペイン語)	2			
	多文化共生研究科目群	多文化共生研究Ⅰ(文化人類学a)	2			
		多文化共生研究Ⅱ(文化人類学b)	2			
		多文化共生研究Ⅲ(社会学a)	2			
		多文化共生研究Ⅳ(社会学b)	2			
		多文化共生研究Ⅴ(異文化間コミュニケーションa)	2			
		多文化共生研究Ⅵ(異文化間コミュニケーションb)	2			
		多文化共生研究各論Ⅰ(アメリカの多文化共生a)	2			
		多文化共生研究各論Ⅱ(アメリカの多文化共生b)	2			
		多文化共生研究各論Ⅲ(異文化社会の認識と世界観a)	2			
		多文化共生研究各論Ⅳ(異文化社会の認識と世界観b)	2			
		多文化共生研究各論Ⅴ(比較社会論)	2			
		多文化共生研究各論Ⅵ(比較文化論)	2			
		多文化共生研究各論Ⅶ(大衆文化論)	2			
		多文化共生研究各論Ⅷ(地域メディア論)	2			
		多文化共生特殊研究Ⅰ(滞日外国人研究)	2			
		多文化共生特殊研究Ⅱ(アメリカ合衆国のラティーノ社会)	2			
		多文化共生特殊研究Ⅲ(カリブ海域社会の民族関係)	2			

60

選択教養科目群	国際交流研究科目群	国際交流研究Ⅰ（国際関係論）	2		
		国際交流研究Ⅱ（国際協力論）	2		
		国際交流研究Ⅲ（国際機構論）	2		
		国際交流研究Ⅳ（NGO論）	2		
		国際交流研究Ⅴ（南北問題）	2		
		国際交流研究Ⅵ（情報とメディア）	2		
		国際交流研究各論Ⅰ（国際政治論a）	2		
		国際交流研究各論Ⅱ（国際政治論b）	2		
		国際交流研究各論Ⅲ（国際経済論a）	2		
		国際交流研究各論Ⅳ（国際経済論b）	2		
		国際交流特殊研究Ⅰ（日本政治外交史a）	2		
		国際交流特殊研究Ⅱ（日本政治外交史b）	2		
		国際交流特殊研究Ⅲ（アジア太平洋地域交流a）	2		
		国際交流特殊研究Ⅳ（アジア太平洋地域交流b）	2		
		国際交流特殊研究Ⅴ（グローバル・ガバナンスa）	2		
		国際交流特殊研究Ⅵ（グローバル・ガバナンスb）	2		
	宗教・文化・歴史研究科目群	宗教・文化・歴史研究Ⅰ（文化史入門）	2		
		宗教・文化・歴史研究Ⅱ（東洋思想史a）	2		
		宗教・文化・歴史研究Ⅲ（東洋思想史b）	2		
		宗教・文化・歴史研究Ⅳ（文明史研究a）	2		
		宗教・文化・歴史研究Ⅴ（文明史研究b）	2		
		宗教・文化・歴史研究Ⅵ（倫理学a）	2		
		宗教・文化・歴史研究Ⅶ（倫理学b）	2		
		宗教・文化・歴史研究各論Ⅰ（地中海世界の宗教と文化a）	2		
		宗教・文化・歴史研究各論Ⅱ（地中海世界の宗教と文化b）	2		
		宗教・文化・歴史研究各論Ⅲ（比較宗教史）	2		
		宗教・文化・歴史研究各論Ⅳ（日本思想史1）	2		
		宗教・文化・歴史研究各論Ⅴ（日本思想史2）	2		
		宗教・文化・歴史研究各論Ⅵ（アラブ文化・芸術a）	2		
		宗教・文化・歴史研究各論Ⅶ（アラブ文化・芸術b）	2		
		宗教・文化・歴史特殊研究Ⅰ（世界の宗教と文化――神教と多神教）	2		
		宗教・文化・歴史特殊研究Ⅱ（思想と文化）	2		
	日本語教育研究科目群	日本語教育研究Ⅰ（日本語教育概説）	2		
		日本語教育研究Ⅱ（日本事情とコミュニケーション教育）	2		
		日本語教育研究各論Ⅰ（日本語教授法1a）	2		
		日本語教育研究各論Ⅱ（日本語教授法1b）	2		
		日本語教育研究各論Ⅲ（日本語音声学）	2		
		日本語教育研究各論Ⅳ（日本語文法形態論）	2		
		日本語教育研究各論Ⅴ（日本語文法統語論）	2		
		日本語教育研究各論Ⅵ（日本語談話論）	2		
		日本語教育研究各論Ⅶ（日本語意味論・語用論）	2		
		日本語教育特殊研究Ⅰ（対照言語学・誤用分析a）	2		
		日本語教育特殊研究Ⅱ（対照言語学・誤用分析b）	2		
		日本語教育特殊研究Ⅲ（文献読解a）	2		
		日本語教育特殊研究Ⅳ（文献読解b）	2		
		日本語教育特殊研究Ⅴ（日本語教授法2）	2		
		日本語教育特殊研究Ⅵ（日本語教育教材論）	2		
		日本語教育特殊研究Ⅶ（教育実習）	2		

選択教養科目群	教育科学研究科目群	教育科学研究Ⅰ（教育の原理）	2			
		教育科学研究Ⅱ（教育の歴史1）	2			
		教育科学研究Ⅲ（教育の歴史2）	2			
		教育科学研究Ⅳ（教職論）	2			
		教育科学研究Ⅴ（発達と学習の心理学）	2			
		教育科学研究Ⅵ（こころの世界）	2			
		教育科学研究各論Ⅰ（比較教育制度論）	2			
		教育科学研究各論Ⅱ（教育課程論）	2			
		教育科学研究各論Ⅲ（カウンセリング論）	2			
		教育科学研究各論Ⅳ（パーソナリティ理論）	2			
		教育科学研究各論Ⅴ（学校カウンセリング）	2			
		教育科学研究各論Ⅵ（こども論）	2			
		教育科学研究各論Ⅶ（認知科学）	2			
		教育科学特殊研究Ⅰ（異文化理解教育）	2			
		教育科学特殊研究Ⅱ（教師と語る）	2			
		教育科学特殊研究Ⅲ（心理検査法と自己理解）	2			
		教育科学特殊研究Ⅳ（スポーツコーチ学a）	2			
		教育科学特殊研究Ⅴ（スポーツコーチ学b）	2			
		教育科学特殊研究Ⅵ（リーダーシップ論）	2			
		教育科学特殊研究Ⅶ（体育経営スポーツマネージメント）	2			
		教育科学特殊研究Ⅷ（ボランティア論）	2			
	自然・環境研究科目群	自然・環境研究Ⅰ（科学史a）	2			
		自然・環境研究Ⅱ（科学史b）	2			
		自然・環境研究Ⅲ（数学a）	2			
		自然・環境研究Ⅳ（数学b）	2			
		自然・環境研究Ⅴ（宇宙論a）	2			
		自然・環境研究Ⅵ（宇宙論b）	2			
		自然・環境研究Ⅶ（天文学a）	2			
		自然・環境研究Ⅷ（天文学b）	2			
		自然・環境研究各論Ⅰ（地球環境論a）	2			
		自然・環境研究各論Ⅱ（地球環境論b）	2			
		自然・環境研究各論Ⅲ（科学技術交流史研究a）	2			
		自然・環境研究各論Ⅳ（科学技術交流史研究b）	2			
		自然・環境特殊研究Ⅰ（自然観察a）	2			
		自然・環境特殊研究Ⅱ（自然観察b）	2			
		自然・環境特殊研究Ⅲ（観察と実験生物学a）	2			
		自然・環境特殊研究Ⅳ（観察と実験生物学b）	2			
	多言語情報処理研究科目群	多言語情報処理研究Ⅰ（コンピュータと言語）	2			
		多言語情報処理研究各論Ⅰ（表計算とプレゼンテーション）	2			
		多言語情報処理研究各論Ⅱ（情報検索と加工）	2			
		多言語情報処理研究各論Ⅲ（ホームページ設計）	2			
		多言語情報処理研究各論Ⅳ（データベース）	2			
		多言語情報処理研究各論Ⅴ（統計と調査法）	2			
		多言語情報処理研究各論Ⅵ（コーパス言語学）	2			
		多言語情報処理特殊研究Ⅰ（自然言語処理a）	2			
		多言語情報処理特殊研究Ⅱ（自然言語処理b）	2			
		多言語情報処理特殊研究Ⅲ（プログラミング論a）	2			
		多言語情報処理特殊研究Ⅳ（プログラミング論b）	2			
		多言語情報処理特殊研究Ⅴ（コンピュータ構造論）	2			
		多言語情報処理特殊研究Ⅵ（マルチメディア論）	2			
全学共通授業科目	全学総合科目	カテゴリーⅠ		2		
		カテゴリーⅡ				
		カテゴリーⅢ				
		カテゴリーⅣ				
		カテゴリーⅤ		2		
	外国語科目	英語以外の外国語科目				
		古典語科目				
演習			2	8		
卒業研究			2	4		
卒業に必要な単位数合計				48	20	60
				128		

備考：

(1) *は外国語部門の「スペイン語」、「中国語」、「韓国語」から一言語を選択する。

(2) 選択教養科目群の中から外国語演習科目群を除く、スペイン・ラテンアメリカ研究科目群、中国研究科目群、韓国研究科目群、日本研究科目群、多言語間交流研究科目群、多文化共生研究科目群、国際交流研究科目群、宗教・文化・歴史研究科目群、日本語教育研究科目群、教育科学研究科目群、自然・環境研究科目群、多言語情報処理研究科目群のうちから、1～2の研究科目群を選択し、選択した科目群1つについて20単位以上を履修する。

(3) 卒業に必要な選択科目のうち16単位までは、他学部または教職課程の授業科目の単位をもって代用できる。ただし、教職課程授業科目の単位の代用については別に定める。

○ 本表は、2007年度入学者から適用する。

学則別表の見方(2007年度入学　国際教養学部言語文化学科生用)

『学則別表』とは？

※1：　学則別表には、卒業するために「何を」「どれだけ」履修・修得すれば良いかが記載されています。

※2：　重要なことは欄外の備考に記載されています。必ず、欄外も見るようにしましょう。

学則別表は、学科・入学年度ごとに異なります。
必ず自分の該当する年度の『**履修の手引**』を参照すること。

単位：

学修量に応じて科目には1単位・2単位など必ず単位が割り当てられています。科目を修得すると割り当てられた単位が得られることになります。

各学期ごとの上限計算や卒業のための計算等で必要。

選択必修科目

「スペイン語」
「中国語」
「韓国語」　から一言語を選択する。

原則3年間（Ⅰ～Ⅵまで）同一の言語を継続して履修する。卒業するまでに20単位修得すること。

全学共通授業科目（全カリ）

全カリのシラバスから選んで登録する。

科目群	部門	科目	単位	必修	選択必修	選択
必須教養科目群	学科基礎	基礎演習a	2	2		
		基礎演習b	2	2		
		言語文化論	2	2		
		哲学Ⅰ	2	2		
		現代世界論	2	2		
		哲学Ⅱ	2	2		
	外国語	英語Ⅰ	1	4		
		英語Ⅱ	1	4		
		英語Ⅲ	1	4		
		英語Ⅳ	1	4		
		英語Ⅴ	1	2		
		英語Ⅵ	1	2		
		スペイン語Ⅰ	1		4*	
		スペイン語Ⅱ	1		4*	
		スペイン語Ⅲ	1		4*	
		スペイン語Ⅳ	1		4*	
		スペイン語Ⅴ	1		2*	
		スペイン語Ⅵ	1		2*	
		中国語Ⅰ	1		4*	
		中国語Ⅱ	1		4*	
		中国語Ⅲ	1		4*	
		中国語Ⅳ	1		4*	
		中国語Ⅴ	1		2*	
		中国語Ⅵ	1		2*	
		韓国語Ⅰ	1		4*	
		韓国語Ⅱ	1		4*	
		韓国語Ⅲ	1		4*	
		韓国語Ⅳ	1		4*	
		韓国語Ⅴ	1		2*	
		韓国語Ⅵ	1		2*	
選択教養科目群	外国語演習科目群	英語演習Ⅰ	2			
		英語演習Ⅱ	2			
		スペイン語演習Ⅰ	2			
		スペイン語演習Ⅱ	2			
		中国語演習Ⅰ	2			
		中国語演習Ⅱ	2			
		韓国語演習Ⅰ	2			
		韓国語演習Ⅱ	2			
	スペイン・ラテンアメリカ研究科目群	スペイン・ラテンアメリカ研究入門Ⅰ（スペイン）	2			
		スペイン・ラテンアメリカ研究入門Ⅱ（ラテンアメリカ）	2			
		スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅰ（ラテンアメリカの歴史と社会）	2			
		スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅱ（ラテンアメリカの政治と社会）	2			
		スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅲ（ラテンアメリカの経済と社会）	2			
		スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅳ（スペイン語圏の言語文化）	2			
		スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅰ（ラテンアメリカ近現代史）	2			
		スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅱ（ラテンアメリカ国際関係論）	2			
		スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅲ（ラテンアメリカ経済発展論）	2			
		スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅳ（スペイン語学）	2			
		スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅴ（ブラジル研究）	2			
		スペイン・ラテンアメリカ研究情報収集法	2			
		スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅰ（スペイン語で聞くスペイン・ラテンアメリカ研究a）	2			
		スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅱ（スペイン語で聞くスペイン・ラテンアメリカ研究b）	2			
		スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅲ（スペイン・ラテンアメリカの芸術文化）	2			
		スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅳ（スペイン・ラテンアメリカの社会文化）	2			
	中国研究科目群	中国研究入門	2			
		中国研究Ⅰ（中国社会論）	2			
		中国研究Ⅱ（中国の思想・文学）	2			
		中国研究Ⅲ（中国史a）	2			
		中国研究Ⅳ（中国史b）	2			
		中国研究各論Ⅰ（現代中国論a）	2			
		中国研究各論Ⅱ（現代中国論b）	2			
		中国研究各論Ⅲ（日中交流史）	2			
		中国研究各論Ⅳ（中国の芸能・芸術）	2			
		中国研究各論Ⅴ（言語文化論）	2			
		中国特殊研究Ⅰ（日中比較文化論a）	2			
		中国特殊研究Ⅱ（日中比較文化論b）	2			
		中国特殊研究Ⅲ（中国文学研究古典）	2			
		中国特殊研究Ⅳ（中国文学研究現代）	2			
		自然・環境特殊研究Ⅰ（自然観察a）	2			
		自然・環境特殊研究Ⅱ（自然観察b）	2			
		自然・環境特殊研究Ⅲ（観察と実験生物学a）	2			
		自然・環境特殊研究Ⅳ（観察と実験生物学b）	2			
	多言語情報処理研究科目群	多言語情報処理研究Ⅰ（コンピュータと言語）	2			
		多言語情報処理研究各論Ⅰ（表計算とプレゼンテーション）	2			
		多言語情報処理研究各論Ⅱ（情報検索と加工）	2			
		多言語情報処理研究各論Ⅲ（ホームページ設計）	2			
		多言語情報処理研究各論Ⅳ（データベース）	2			
		多言語情報処理研究各論Ⅴ（統計と調査法）	2			
		多言語情報処理研究各論Ⅵ（コーパス言語学）	2			
		多言語情報処理特殊研究Ⅰ（自然言語処理a）	2			
		多言語情報処理特殊研究Ⅱ（自然言語処理b）	2			
		多言語情報処理特殊研究Ⅲ（プログラミング論a）	2			
		多言語情報処理特殊研究Ⅳ（プログラミング論b）	2			
		多言語情報処理特殊研究Ⅴ（コンピュータ構造論）	2			
		多言語情報処理特殊研究Ⅵ（マルチメディア論）	2			
全学共通授業科目	全学総合科目	カテゴリーⅠ		2		
		カテゴリーⅡ				
		カテゴリーⅢ				
		カテゴリーⅣ				
		カテゴリーⅤ		2		
	外国語科目	英語以外の外国語科目				
		古典語科目				
演習			2	8		
卒業研究			2	4		
卒業に必要な単位数合計				48	20	60
				128		

必修科目

「学科基礎部門」
「外国語部門」の英語科目、
　カテゴリーⅠ，Ⅴ、
　演習、卒業研究

必修のところに数字がある科目は必ずその科目の単位数を卒業までに修得しなければいけない。

選択科目

矢印の範囲内から自由に選択して６０単位以上を修得する。「全学共通授業科目」も含む。

ただし、
12の選択教養科目群(外国語演習科目群を除く)のうちから1つ以上の研究科目群を選択し、中心となる1つの科目群については、必ず20単位以上を修得する。

60

卒業するまでには最低限

128単位

が必要

備考：
(1) *は外国語部門の「スペイン語」、「中国語」、「韓国語」から一言語を選択する。
(2) 選択教養科目群の中から外国語演習科目群を除く、スペイン・ラテンアメリカ研究科目群、中国研究科目群、韓国研究科目群、日本研究科目群、多言語間交流研究科目群、多文化共生研究科目群、国際交流研究科目群、宗教・文化・歴史研究科目群、日本語教育研究科目群、教育科学研究科目群、自然・環境研究科目群、多言語情報処理研究科目群のうちから、1～2の研究科目群を選択し、選択した科目群1つについて20単位以上を履修する。
(3) 卒業に必要な選択科目のうち16単位までは、他学部または教職課程の授業科目の単位をもって代用できる。ただし、教職課程授業科目の単位の代用については別に定める。
○ 本表は、2007年度入学者から適用する。

国際教養学部言語文化学科科目特性表

科目群	部門	科目	学期配当 1	2	3	4	5	6	7	8	備考
必須教養科目群	学科基礎	基礎演習a	●	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定
		基礎演習b		●	○	○	○	○	○	○	〃
		言語文化論		●	○	○	○	○	○	○	
		哲学Ⅰ	●	○	○	○	○	○	○	○	
		現代世界論	●	○	○	○	○	○	○	○	
		哲学Ⅱ							●	○	
	外国語	英語Ⅰ	●	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定
		英語Ⅱ		●	○	○	○	○	○	○	〃
		英語Ⅲ			●	○	○	○	○	○	〃
		英語Ⅳ				●	○	○	○	○	〃
		英語Ⅴ					●	○	○	○	〃
		英語Ⅵ						●	○	○	〃
		スペイン語Ⅰ	●	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定
		スペイン語Ⅱ		●	○	○	○	○	○	○	〃
		スペイン語Ⅲ			●	○	○	○	○	○	〃
		スペイン語Ⅳ				●	○	○	○	○	〃
		スペイン語Ⅴ					●	○	○	○	〃
		スペイン語Ⅵ						●	○	○	〃
		中国語Ⅰ	●	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定
		中国語Ⅱ		●	○	○	○	○	○	○	〃
		中国語Ⅲ			●	○	○	○	○	○	〃
		中国語Ⅳ				●	○	○	○	○	〃
		中国語Ⅴ					●	○	○	○	〃
		中国語Ⅵ						●	○	○	〃
		韓国語Ⅰ	●	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定
		韓国語Ⅱ		●	○	○	○	○	○	○	〃
		韓国語Ⅲ			●	○	○	○	○	○	〃
		韓国語Ⅳ				●	○	○	○	○	〃
		韓国語Ⅴ					●	○	○	○	〃
		韓国語Ⅵ						●	○	○	〃
選択教養科目群	外国語演習科目群	英語演習Ⅰ					○	○	○	○	
		英語演習Ⅱ						○	○	○	
		スペイン語演習Ⅰ					○	○	○	○	
		スペイン語演習Ⅱ						○	○	○	
		中国語演習Ⅰ					○	○	○	○	
		中国語演習Ⅱ						○	○	○	
		韓国語演習Ⅰ					○	○	○	○	
		韓国語演習Ⅱ						○	○	○	
	スペイン・ラテンアメリカ研究科目群	スペイン・ラテンアメリカ研究入門Ⅰ(スペイン)	○	○	○	○	○	○	○	○	
		スペイン・ラテンアメリカ研究入門Ⅱ(ラテンアメリカ)		○	○	○	○	○	○	○	
		スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅰ(ラテンアメリカの歴史と社会)				○	○	○	○	○	
		スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅱ(ラテンアメリカの政治と社会)			○	○	○	○	○	○	
		スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅲ(ラテンアメリカの経済と社会)			○	○	○	○	○	○	
		スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅳ(スペイン語圏の言語文化)				○	○	○	○	○	
		スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅰ(ラテンアメリカ近現代史)			○	○	○	○	○	○	
		スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅱ(ラテンアメリカ国際関係論)				○	○	○	○	○	
		スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅲ(ラテンアメリカ経済発展論)				○	○	○	○	○	
		スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅳ(スペイン語学)			○	○	○	○	○	○	
		スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅴ(ブラジル研究)			○	○	○	○	○	○	
		スペイン・ラテンアメリカ研究情報収集法				○	○	○	○	○	
		スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅰ(スペイン語で聞くスペイン・ラテンアメリカ研			○	○	○	○	○	○	
		スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅱ(スペイン語で聞くスペイン・ラテンアメリカ研				○	○	○	○	○	
		スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅲ(スペイン・ラテンアメリカの芸術文化)			○	○	○	○	○	○	
		スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅳ(スペイン・ラテンアメリカの社会文化)				○	○	○	○	○	
	中国研究科目群	中国研究入門	○	○	○	○	○	○	○	○	
		中国研究Ⅰ(中国社会論)				○	○	○	○	○	
		中国研究Ⅱ(中国の思想・文学)			○	○	○	○	○	○	
		中国研究Ⅲ(中国史a)			○	○	○	○	○	○	
		中国研究Ⅳ(中国史b)				○	○	○	○	○	
		中国研究各論Ⅰ(現代中国論a)			○	○	○	○	○	○	
		中国研究各論Ⅱ(現代中国論b)				○	○	○	○	○	
		中国研究各論Ⅲ(日中交流史)			○	○	○	○	○	○	
		中国研究各論Ⅳ(中国の芸能・芸術)				○	○	○	○	○	
		中国研究各論Ⅴ(言語文化論)				○	○	○	○	○	
		中国特殊研究Ⅰ(日中比較文化論a)			○	○	○	○	○	○	
		中国特殊研究Ⅱ(日中比較文化論b)				○	○	○	○	○	
		中国特殊研究Ⅲ(中国文学研究古典)			○	○	○	○	○	○	
		中国特殊研究Ⅳ(中国文学研究現代)				○	○	○	○	○	
	韓国研究科目群	韓国研究入門	○	○	○	○	○	○	○	○	
		韓国研究Ⅰ(韓国史)			○	○	○	○	○	○	
		韓国研究Ⅱ(韓国社会論)				○	○	○	○	○	
		韓国研究Ⅲ(韓国の言語文化)				○	○	○	○	○	
		韓国研究各論Ⅰ(韓国社会各論a)			○	○	○	○	○	○	
		韓国研究各論Ⅱ(韓国社会各論b)			○	○	○	○	○	○	
		韓国研究各論Ⅲ(日韓交流史)				○	○	○	○	○	
		韓国研究各論Ⅳ(韓国文化各論a)			○	○	○	○	○	○	
		韓国研究各論Ⅴ(韓国文化各論b)				○	○	○	○	○	
		韓国研究各論Ⅵ(韓国文化各論c)			○	○	○	○	○	○	
		韓国研究情報収集法				○	○	○	○	○	
		韓国特殊研究Ⅰ(日韓比較文化論a)				○	○	○	○	○	
		韓国特殊研究Ⅱ(日韓比較文化論b)			○	○	○	○	○	○	
		韓国特殊研究Ⅲ(文献読解)				○	○	○	○	○	
	日本研究科目群	日本研究Ⅰ(日本文学古典)	○	○	○	○	○	○	○	○	
		日本研究Ⅱ(日本文学現代)		○	○	○	○	○	○	○	
		日本研究Ⅲ(日本史a)	○	○	○	○	○	○	○	○	
		日本研究Ⅳ(日本史b)		○	○	○	○	○	○	○	
		日本研究Ⅴ(日本経済論a)	○	○	○	○	○	○	○	○	
		日本研究Ⅵ(日本経済論b)		○	○	○	○	○	○	○	
		日本研究Ⅶ(日本文化論)	○	○	○	○	○	○	○	○	
		日本研究各論Ⅰ(民俗芸能)				○	○	○	○	○	
		日本研究各論Ⅱ(企業経営)			○	○	○	○	○	○	
		日本研究各論Ⅲ(地域文化)				○	○	○	○	○	
		日本研究各論Ⅳ(古典芸能)			○	○	○	○	○	○	
		日本特殊研究Ⅰ(民俗学)			○	○	○	○	○	○	
		日本特殊研究Ⅱ(文献読解)				○	○	○	○	○	
		日本特殊研究Ⅲ(写本を読む)			○	○	○	○	○	○	
		日本特殊研究Ⅳ(碑文を読む)				○	○	○	○	○	

科目群	部門	科目	学期配当 1	2	3	4	5	6	7	8	備考
選択教養科目群	多言語間交流研究科目群	多言語間交流研究Ⅰ(言語学a)	○	○	○	○	○	○	○	○	
		多言語間交流研究Ⅱ(言語学b)		○	○	○	○	○	○	○	
		多言語間交流研究Ⅲ(英語学a)	○	○	○	○	○	○	○	○	
		多言語間交流研究Ⅳ(英語学b)		○	○	○	○	○	○	○	
		多言語間交流研究Ⅴ(英語圏の文学)		○	○	○	○	○	○	○	
		多言語間交流研究各論Ⅰ(応用言語学)			○	○	○	○	○	○	
		多言語間交流研究各論Ⅱ(第二言語習得)				○	○	○	○	○	
		多言語間交流研究各論Ⅲ(英語圏の小説a)			○	○	○	○	○	○	
		多言語間交流研究各論Ⅳ(英語圏の小説b)				○	○	○	○	○	
		多言語間交流研究各論Ⅴ(英語圏の詩a)			○	○	○	○	○	○	
		多言語間交流研究各論Ⅵ(英語圏の詩b)				○	○	○	○	○	
		多言語間交流研究各論Ⅶ(英語圏の演劇a)			○	○	○	○	○	○	
		多言語間交流研究各論Ⅷ(英語圏の演劇b)				○	○	○	○	○	
		多言語間交流研究各論Ⅸ(国際語としての英語)			○	○	○	○	○	○	
		多言語間交流研究各論Ⅹ(多言語環境と英語)				○	○	○	○	○	
		多言語間交流研究各論ⅩⅠ(英語圏の文化)			○	○	○	○	○	○	
		多言語間交流研究各論ⅩⅡ(英語圏事情)				○	○	○	○	○	
		多言語間交流特殊研究Ⅰ(翻訳通訳論・英語)			○	○	○	○	○	○	
		多言語間交流特殊研究Ⅱ(翻訳通訳論・中国語)			○	○	○	○	○	○	
		多言語間交流特殊研究Ⅲ(翻訳通訳論・スペイン語)			○	○	○	○	○	○	
		多言語間交流特殊研究Ⅳ(翻訳通訳実習・英語)				○	○	○	○	○	
		多言語間交流特殊研究Ⅴ(翻訳通訳実習・中国語)				○	○	○	○	○	
		多言語間交流特殊研究Ⅵ(翻訳通訳実習・スペイン語)				○	○	○	○	○	
	多文化共生研究科目群	多文化共生研究Ⅰ(文化人類学a)	○	○	○	○	○	○	○	○	
		多文化共生研究Ⅱ(文化人類学b)		○	○	○	○	○	○	○	
		多文化共生研究Ⅲ(社会学a)	○	○	○	○	○	○	○	○	
		多文化共生研究Ⅳ(社会学b)		○	○	○	○	○	○	○	
		多文化共生研究Ⅴ(異文化間コミュニケーションa)	○	○	○	○	○	○	○	○	
		多文化共生研究Ⅵ(異文化間コミュニケーションb)		○	○	○	○	○	○	○	
		多文化共生研究各論Ⅰ(アメリカの多文化共生a)			○	○	○	○	○	○	
		多文化共生研究各論Ⅱ(アメリカの多文化共生b)				○	○	○	○	○	
		多文化共生研究各論Ⅲ(異文化社会の認識と世界観a)			○	○	○	○	○	○	
		多文化共生研究各論Ⅳ(異文化社会の認識と世界観b)				○	○	○	○	○	
		多文化共生研究各論Ⅴ(比較社会論)				○	○	○	○	○	
		多文化共生研究各論Ⅵ(比較文化論)			○	○	○	○	○	○	
		多文化共生研究各論Ⅶ(大衆文化論)			○	○	○	○	○	○	
		多文化共生研究各論Ⅷ(地域メディア論)				○	○	○	○	○	
		多文化共生特殊研究Ⅰ(滞日外国人研究)				○	○	○	○	○	
		多文化共生特殊研究Ⅱ(アメリカ合衆国のラティーノ社会)			○	○	○	○	○	○	
		多文化共生特殊研究Ⅲ(カリブ海域社会の民族関係)				○	○	○	○	○	
	国際交流研究科目群	国際交流研究Ⅰ(国際関係論)	○	○	○	○	○	○	○	○	
		国際交流研究Ⅱ(国際協力論)	○	○	○	○	○	○	○	○	
		国際交流研究Ⅲ(国際機構論)	○	○	○	○	○	○	○	○	
		国際交流研究Ⅳ(NGO論)		○	○	○	○	○	○	○	
		国際交流研究Ⅴ(南北問題)		○	○	○	○	○	○	○	
		国際交流研究Ⅵ(情報とメディア)		○	○	○	○	○	○	○	
		国際交流研究各論Ⅰ(国際政治論a)			○	○	○	○	○	○	
		国際交流研究各論Ⅱ(国際政治論b)				○	○	○	○	○	
		国際交流研究各論Ⅲ(国際経済論a)			○	○	○	○	○	○	
		国際交流研究各論Ⅳ(国際経済論b)				○	○	○	○	○	
		国際交流特殊研究Ⅰ(日本政治外交史a)			○	○	○	○	○	○	
		国際交流特殊研究Ⅱ(日本政治外交史b)				○	○	○	○	○	
		国際交流特殊研究Ⅲ(アジア太平洋地域交流a)			○	○	○	○	○	○	
		国際交流特殊研究Ⅳ(アジア太平洋地域交流b)				○	○	○	○	○	
		国際交流特殊研究Ⅴ(グローバル・ガバナンスa)			○	○	○	○	○	○	
		国際交流特殊研究Ⅵ(グローバル・ガバナンスb)				○	○	○	○	○	
	宗教・文化・歴史研究科目群	宗教・文化・歴史研究Ⅰ(文化史入門)	○	○	○	○	○	○	○	○	
		宗教・文化・歴史研究Ⅱ(東洋思想史a)	○	○	○	○	○	○	○	○	
		宗教・文化・歴史研究Ⅲ(東洋思想史b)		○	○	○	○	○	○	○	
		宗教・文化・歴史研究Ⅳ(文明史研究a)	○	○	○	○	○	○	○	○	
		宗教・文化・歴史研究Ⅴ(文明史研究b)		○	○	○	○	○	○	○	
		宗教・文化・歴史研究Ⅵ(倫理学a)	○	○	○	○	○	○	○	○	
		宗教・文化・歴史研究Ⅶ(倫理学b)		○	○	○	○	○	○	○	
		宗教・文化・歴史研究各論Ⅰ(地中海世界の宗教と文化a)			○	○	○	○	○	○	
		宗教・文化・歴史研究各論Ⅱ(地中海世界の宗教と文化b)				○	○	○	○	○	
		宗教・文化・歴史研究各論Ⅲ(比較宗教史)				○	○	○	○	○	
		宗教・文化・歴史研究各論Ⅳ(日本思想史1)			○	○	○	○	○	○	
		宗教・文化・歴史研究各論Ⅴ(日本思想史2)				○	○	○	○	○	
		宗教・文化・歴史研究各論Ⅵ(アラブ文化・芸術a)			○	○	○	○	○	○	
		宗教・文化・歴史研究各論Ⅶ(アラブ文化・芸術b)				○	○	○	○	○	
		宗教・文化・歴史特殊研究Ⅰ(世界の宗教と文化――神教と多神教)				○	○	○	○	○	
		宗教・文化・歴史特殊研究Ⅱ(思想と文化)				○	○	○	○	○	
	日本語教育研究科目群	日本語教育研究Ⅰ(日本語教育概説)	○	○	○	○	○	○	○	○	
		日本語教育研究Ⅱ(日本事情とコミュニケーション教育)	○	○	○	○	○	○	○	○	
		日本語教育研究各論Ⅰ(日本語教授法1a)			○	○	○	○	○	○	
		日本語教育研究各論Ⅱ(日本語教授法1b)				○	○	○	○	○	
		日本語教育研究各論Ⅲ(日本語音声学)			○	○	○	○	○	○	
		日本語教育研究各論Ⅳ(日本語文法形態論)			○	○	○	○	○	○	
		日本語教育研究各論Ⅴ(日本語文法統語論)				○	○	○	○	○	
		日本語教育研究各論Ⅵ(日本語談話論)				○	○	○	○	○	
		日本語教育研究各論Ⅶ(日本語意味論・語用論)				○	○	○	○	○	
		日本語教育特殊研究Ⅰ(対照言語学・誤用分析a)			○	○	○	○	○	○	
		日本語教育特殊研究Ⅱ(対照言語学・誤用分析b)				○	○	○	○	○	
		日本語教育特殊研究Ⅲ(文献読解a)			○	○	○	○	○	○	
		日本語教育特殊研究Ⅳ(文献読解b)				○	○	○	○	○	
		日本語教育特殊研究Ⅴ(日本語教授法2)							○	○	
		日本語教育特殊研究Ⅵ(日本語教育教材論)				○	○	○	○	○	
		日本語教育特殊研究Ⅶ(教育実習)							○	○	

科目群	部門	科目	学期配当 1	2	3	4	5	6	7	8	備考
選択教養科目群	教育科学研究科目群	教育科学研究Ⅰ(教育の原理)	○	○	○	○	○	○	○	○	
		教育科学研究Ⅱ(教育の歴史1)	○	○	○	○	○	○	○	○	
		教育科学研究Ⅲ(教育の歴史2)		○	○	○	○	○	○	○	
		教育科学研究Ⅳ(教職論)	○	○	○	○	○	○	○	○	
		教育科学研究Ⅴ(発達と学習の心理学)	○	○	○	○	○	○	○	○	
		教育科学研究Ⅵ(こころの世界)		○	○	○	○	○	○	○	
		教育科学研究各論Ⅰ(比較教育制度論)			○	○	○	○	○	○	
		教育科学研究各論Ⅱ(教育課程論)			○	○	○	○	○	○	
		教育科学研究各論Ⅲ(カウンセリング論)			○	○	○	○	○	○	
		教育科学研究各論Ⅳ(パーソナリティ理論)				○	○	○	○	○	
		教育科学研究各論Ⅴ(学校カウンセリング)			○	○	○	○	○	○	
		教育科学研究各論Ⅵ(こども論)				○	○	○	○	○	
		教育科学研究各論Ⅶ(認知科学)			○	○	○	○	○	○	
		教育科学特殊研究Ⅰ(異文化理解教育)			○	○	○	○	○	○	
		教育科学特殊研究Ⅱ(教師と語る)				○	○	○	○	○	
		教育科学特殊研究Ⅲ(心理検査法と自己理解)				○	○	○	○	○	
		教育科学特殊研究Ⅳ(スポーツコーチ学a)			○	○	○	○	○	○	
		教育科学特殊研究Ⅴ(スポーツコーチ学b)				○	○	○	○	○	
		教育科学特殊研究Ⅵ(リーダーシップ論)			○	○	○	○	○	○	
		教育科学特殊研究Ⅶ(体育経営スポーツマネージメント)				○	○	○	○	○	
		教育科学特殊研究Ⅷ(ボランティア論)			○	○	○	○	○	○	
	自然・環境研究科目群	自然・環境研究Ⅰ(科学史a)	○	○	○	○	○	○	○	○	
		自然・環境研究Ⅱ(科学史b)		○	○	○	○	○	○	○	
		自然・環境研究Ⅲ(数学a)	○	○	○	○	○	○	○	○	
		自然・環境研究Ⅳ(数学b)		○	○	○	○	○	○	○	
		自然・環境研究Ⅴ(宇宙論a)	○	○	○	○	○	○	○	○	
		自然・環境研究Ⅵ(宇宙論b)		○	○	○	○	○	○	○	
		自然・環境研究Ⅶ(天文学a)	○	○	○	○	○	○	○	○	
		自然・環境研究Ⅷ(天文学b)		○	○	○	○	○	○	○	
		自然・環境研究各論Ⅰ(地球環境論a)			○	○	○	○	○	○	
		自然・環境研究各論Ⅱ(地球環境論b)				○	○	○	○	○	
		自然・環境研究各論Ⅲ(科学技術交流史研究a)			○	○	○	○	○	○	
		自然・環境研究各論Ⅳ(科学技術交流史研究b)				○	○	○	○	○	
		自然・環境特殊研究Ⅰ(自然観察a)			○	○	○	○	○	○	
		自然・環境特殊研究Ⅱ(自然観察b)				○	○	○	○	○	
		自然・環境特殊研究Ⅲ(観察と実験生物学a)			○	○	○	○	○	○	
		自然・環境特殊研究Ⅳ(観察と実験生物学b)				○	○	○	○	○	
	多言語情報処理研究科目群	多言語情報処理研究Ⅰ(コンピュータと言語)	○	○	○	○	○	○	○	○	
		多言語情報処理研究各論Ⅰ(表計算とプレゼンテーション)			○	○	○	○	○	○	
		多言語情報処理研究各論Ⅱ(情報検索と加工)			○	○	○	○	○	○	
		多言語情報処理研究各論Ⅲ(ホームページ設計)				○	○	○	○	○	
		多言語情報処理研究各論Ⅳ(データベース)				○	○	○	○	○	
		多言語情報処理研究各論Ⅴ(統計と調査法)			○	○	○	○	○	○	
		多言語情報処理研究各論Ⅵ(コーパス言語学)				○	○	○	○	○	
		多言語情報処理特殊研究Ⅰ(自然言語処理a)			○	○	○	○	○	○	
		多言語情報処理特殊研究Ⅱ(自然言語処理b)				○	○	○	○	○	
		多言語情報処理特殊研究Ⅲ(プログラミング論a)			○	○	○	○	○	○	
		多言語情報処理特殊研究Ⅳ(プログラミング論b)				○	○	○	○	○	
		多言語情報処理特殊研究Ⅴ(コンピュータ構造論)				○	○	○	○	○	
		多言語情報処理特殊研究Ⅵ(マルチメディア論)			○	○	○	○	○	○	
演習					●	●	●	●	○	○	
卒業研究									●	●	

備考:学期配当欄の○印は履修できる学期を、●は履修すべき学期を示します。

国際教養学部言語文化学科授業科目(2007年度入学生用)

目 次

必須教養科目群

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
「学科基礎」部門								
	春	基礎演習a	各担当教員	木5	2	1	全	1
	秋	基礎演習b	各担当教員	木5	2	1	全	1
	秋	言語文化論	浅山　佳郎	月4	2	1	全	2
	春	哲学Ⅰ	松丸　壽雄	金4	2	1	全	3
	春	現代世界論	佐藤　勘治	月4	2	1	全	4
「外国語」部門								
	春	英語Ⅰ(IE)	各担当教員		1	1	全	5
	春	英語Ⅰ(W)	各担当教員		1	1	全	6
	春	英語Ⅰ(S)	各担当教員		1	1	全	7
	秋	英語Ⅱ(IE)	各担当教員		1	1	全	5
	秋	英語Ⅱ(W)	各担当教員		1	1	全	6
	秋	英語Ⅱ(S)	各担当教員		1	1	全	7
	春	スペイン語Ⅰ(総合1)	各担当教員		1	1	全	8
	春	スペイン語Ⅰ(総合2)	各担当教員		1	1	全	9
	春	スペイン語Ⅰ(入門)	各担当教員		1	1	全	10
	春	スペイン語Ⅰ(会話)	各担当教員		1	1	全	11
	秋	スペイン語Ⅱ(総合1)	各担当教員		1	1	全	8
	秋	スペイン語Ⅱ(総合2)	各担当教員		1	1	全	9
	秋	スペイン語Ⅱ(基礎表現)	各担当教員		1	1	全	10
	秋	スペイン語Ⅱ(会話)	各担当教員		1	1	全	11
	春	中国語Ⅰ(総合1)	各担当教員		1	1	全	12
	春	中国語Ⅰ(総合2)	各担当教員		1	1	全	13
	春	中国語Ⅰ(入門)	各担当教員		1	1	全	14
	春	中国語Ⅰ(会話)	各担当教員		1	1	全	15
	秋	中国語Ⅱ(総合1)	各担当教員		1	1	全	12
	秋	中国語Ⅱ(総合2)	各担当教員		1	1	全	13
	秋	中国語Ⅱ(基礎表現)	各担当教員		1	1	全	14
	秋	中国語Ⅱ(会話)	各担当教員		1	1	全	15
	春	韓国語Ⅰ(文法・読解1)	各担当教員		1	1	全	16
	春	韓国語Ⅰ(文法・読解2)	各担当教員		1	1	全	17
	春	韓国語Ⅰ(コミュニケーション1)	各担当教員		1	1	全	18
	春	韓国語Ⅰ(コミュニケーション2)	各担当教員		1	1	全	19
	秋	韓国語Ⅱ(文法・読解1)	各担当教員		1	1	全	16
	秋	韓国語Ⅱ(文法・読解2)	各担当教員		1	1	全	17
	秋	韓国語Ⅱ(コミュニケーション1)	各担当教員		1	1	全	18
	秋	韓国語Ⅱ(コミュニケーション2)	各担当教員		1	1	全	19

選択教養科目群

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
「スペイン・ラテンアメリカ研究科目群」								
13167	春	スペイン・ラテンアメリカ研究入門Ⅰ（スペイン）	二宮　哲	月5	2	1	全	20
13168	秋	スペイン・ラテンアメリカ研究入門Ⅱ（ラテンアメリカ）	佐藤　勘治	月5	2	1	全	20
「中国研究科目群」								
13470	春	中国研究入門	上村　幸治	月5	2	1	全	21
「韓国研究科目群」								
13141	春	韓国研究入門	平田　由紀江	木4	2	1	全	22
「日本研究科目群」								
13471	春	日本研究Ⅰ（日本文学古典）	福沢　健	月2	2	1	全	23
13198	秋	日本研究Ⅱ（日本文学現代）	佐藤　毅	木1	2	1	全	24
13199	春	日本研究Ⅲ（日本史a）	丸浜　昭	火5	2	1	全	25
13200	秋	日本研究Ⅳ（日本史b）	丸浜　昭	火5	2	1	全	25
13201	春	日本研究Ⅴ（日本経済論a）	波形　昭一	火5	2	1	全	26
13202	秋	日本研究Ⅵ（日本経済論b）	波形　昭一	火5	2	1	全	26
13203	春	日本研究Ⅶ（日本文化論）	飯島　一彦	火3	2	1	全	27
「多言語間交流研究科目群」								
13443	春	多言語間交流研究Ⅰ（言語学a）	安間　一雄	火4	2	1	全	28
13444	秋	多言語間交流研究Ⅱ（言語学b）	安間　一雄	火4	2	1	全	28
13146	春	多言語間交流研究Ⅲ（英語学a）	安間　一雄	金1	2	1	全	29
13147	秋	多言語間交流研究Ⅳ（英語学b）	安間　一雄	金1	2	1	全	29
13142	秋	多言語間交流研究Ⅴ（英語圏の文学）	佐藤　勉	火4	2	1	全	30
「多文化共生研究科目群」								
13204	春	多文化共生研究Ⅰ（文化人類学a）	井上　兼行	火2	2	1	全	31
13205	秋	多文化共生研究Ⅱ（文化人類学b）	井上　兼行	火2	2	1	全	31
13548	春	多文化共生研究Ⅰ（文化人類学a）	井上　兼行	火3	2	1	全	31
13549	秋	多文化共生研究Ⅱ（文化人類学b）	井上　兼行	火3	2	1	全	31
13206	春	多文化共生研究Ⅲ（社会学a）	岡村　圭子	土1	2	1	全	32
13207	秋	多文化共生研究Ⅳ（社会学b）	岡村　圭子	土1	2	1	全	32
13208	春	多文化共生研究Ⅲ（社会学a）	岡村　圭子	土2	2	1	全	32
13209	秋	多文化共生研究Ⅳ（社会学b）	岡村　圭子	土2	2	1	全	32
13210	春	多文化共生研究Ⅴ（異文化間コミュニケーションa）	岡村　圭子	木1	2	1	全	33
13211	秋	多文化共生研究Ⅵ（異文化間コミュニケーションb）	山本　英政	火5	2	1	全	33

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
「国際交流研究科目群」								
13145	春	国際交流研究Ⅰ（国際関係論）	上村　幸治	水1	2	1	全	34
13319	春	国際交流研究Ⅱ（国際協力論）	浦部　浩之	月1	2	1	全	35
13212	春	国際交流研究Ⅲ（国際機構論）	鈴木　淳一	火3	2	1	全	36
※	秋	国際交流研究Ⅳ（NGO論）	未定	未定	2	1	全	37
13320	秋	国際交流研究Ⅴ（南北問題）	浦部　浩之	月1	2	1	全	38
13213	秋	国際交流研究Ⅵ（情報とメディア）	上村　幸治	木3	2	1	全	39

※　秋学期開講予定ですが、曜日・時限担当者は未定です。秋学期までに掲示にてお知らせするので必ず確認してください。

「宗教・文化・歴史研究科目群」								
13144	春	宗教・文化・歴史研究Ⅰ（文化史入門）	古川　堅治	水2	2	1	全	40
13214	春	宗教・文化・歴史研究Ⅱ（東洋思想史a）	松丸　壽雄	水2	2	1	全	41
13215	秋	宗教・文化・歴史研究Ⅲ（東洋思想史b）	松丸　壽雄	水2	2	1	全	41
13472	春	宗教・文化・歴史研究Ⅳ（文明史研究a）	古川　堅治	金1	2	1	全	42
13473	秋	宗教・文化・歴史研究Ⅴ（文明史研究b）	古川　堅治	金1	2	1	全	42
13148	春	宗教・文化・歴史研究Ⅵ（倫理学a）	松丸　壽雄	火2	2	1	全	43
13149	秋	宗教・文化・歴史研究Ⅶ（倫理学b）	松丸　壽雄	火2	2	1	全	43
「日本語教育研究科目群」								
13216	春	日本語教育研究Ⅰ（日本語教育概説）	中西　家栄子	水2	2	1	全	44
13217	春	日本語教育研究Ⅱ（日本事情とコミュニケーション教育）	小山　慎治	木2	2	1	全	45
「教育科学研究科目群」								
13218	春	教育科学研究Ⅰ（教育の原理）	川村　肇	木4	2	1	全	46
13219	秋	教育科学研究Ⅰ（教育の原理）	川村　肇	火2	2	1	全	46
13220	春	教育科学研究Ⅰ（教育の原理）	小島　優生	月1	2	1	全	47
13221	秋	教育科学研究Ⅰ（教育の原理）	小島　優生	水2	2	1	全	47
13222	春	教育科学研究Ⅱ（教育の歴史1）	川村　肇	木3	2	1	全	48
13223	春	教育科学研究Ⅳ（教職論）	川村　肇	火2	2	1	全	49
13224	秋	教育科学研究Ⅳ（教職論）	川村　肇	木4	2	1	全	49
13225	春	教育科学研究Ⅳ（教職論）	吉田　武大	月2	2	1	全	50
13226	秋	教育科学研究Ⅳ（教職論）	吉田　武大	月2	2	1	全	50
13227	春	教育科学研究Ⅴ（発達と学習の心理学）	田口　雅徳	金1	2	1	全	51
13228	秋	教育科学研究Ⅴ（発達と学習の心理学）	田口　雅徳	金1	2	1	全	51
13474	春	教育科学研究Ⅴ（発達と学習の心理学）	横田　雅弘	火4	2	1	全	52
13475	秋	教育科学研究Ⅴ（発達と学習の心理学）	森川　正大	水1	2	1	全	53
13476	秋	教育科学研究Ⅵ（こころの世界）	田口　雅徳	火2	2	1	全	54
「自然・環境研究科目群」								
13229	春	自然・環境研究Ⅰ（科学史a）	東　孝博	金3	2	1	全	55
13230	秋	自然・環境研究Ⅱ（科学史b）	東　孝博	金3	2	1	全	55
13477	春	自然・環境研究Ⅲ（数学a）	福井　尚生	月1	2	1	全	56
13478	秋	自然・環境研究Ⅳ（数学b）	福井　尚生	月1	2	1	全	56
13231	春	自然・環境研究Ⅴ（宇宙論a）	福井　尚生	金1	2	1	全	57
13232	秋	自然・環境研究Ⅵ（宇宙論b）	福井　尚生	金1	2	1	全	57
13233	春	自然・環境研究Ⅶ（天文学a）	福井　尚生	金3	2	1	全	58
13234	秋	自然・環境研究Ⅷ（天文学b）	福井　尚生	金3	2	1	全	58
「多言語情報処理研究科目群」								
13235	春	多言語情報処理研究Ⅰ（コンピュータと言語）	呉　浩東	月2	2	1	全	59

全学総合科目

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
「カテゴリーⅤ」(国際教養学部クラス指定科目)								
	春	スポーツ・レクリエーション(学生交流支援プログラム)	各担当教員	±1/±2	1	1	全	61～63

	基礎演習 a	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基礎ゼミの目的は、入学生に今後 4 年間の大学生活を有意義に過ごすためのアドバイスおよびケアと 2 年次以降の専門の研究に対処できるように、指導することにある。 そのために、読み書きの能力などのリテラシー、分析能力、達成指向力などのコンピテンシーの能力を高めていくことが課題となる。 具体的な講義の内容は、授業計画の通りである。	1. 大学生活を考える（1 回） 将来展望、サークル活動、アルバイト、試験の準備と受け方 2. 問題の発見と書き方（3 回） 資料や文献を調べる、情報の収集、図書館の利用法、レポート、小論文の書き方、文献ノートの作成、要約の仕方 3. 話し方、聴き方、ノートのとり方（3 回） グループ討議、プレゼンテーションのスキル、授業の受け方、講義でのノートのとり方 4. 読み方・文章理解（2 回） 読書の方法、読書の整理法、テキストの読み方 5. パソコンの利用（3 回） 文章作成の基本、E メールの使い方、インターネットの使い方と情報検索、パワーポイントの作り方と使い方
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員による。	各担当教員による。

	基礎演習 b	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期の基礎ゼミでは、9 名の教員によって、独自になされる。 講義目的、講義概要、授業計画については、春学期の基礎ゼミの時間に、各教員より説明がある。 ここでは、また各ゼミ員が、2 年次以降の履修計画を指導教員と相談の上、決めていく。	各担当教員による。
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員による。	各担当教員による。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

	言語文化論	担当者	浅山　佳郎

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 言語文化学科が学科の目的とする国際的な教養としての「言語」と「文化」が，全体としてどのようなものであるかを考えるための授業である。学科が設けている「選択教養科目群」の中の研究科目群のそれぞれが，おおまかにどういう内容の分野であり，どういうことが学べるのか，卒業後の進路もふくめて，大きな見取り図を描くことを目的とする。この授業を履修することで，３学期以降の履修計画に資するとともに，演習選択のための参考ともなる。 〔講義概要〕 とりあげられるのは，スペイン・ラテンアメリカ研究，中国研究，韓国研究，日本研究，多言語間交流研究，多文化共生研究，国際交流研究，宗教・文化・歴史研究，日本語教育研究，教育科学研究，自然・環境研究，多言語情報処理研究の 12 の選択教養科目群であり，毎回，それぞれを担当する教員をゲストとしてむかえ，それぞれの「群」がどのような構成になっているのか，それぞれの「群」の目的は何か，などを講義するとともに，学生からの質問に答える形式をできるかぎりとりたい。	第１回　ガイダンス 第２回　スペイン・ラテンアメリカ研究科目群について 第３回　中国研究科目群について 第４回　韓国研究科目群について 第５回　多言語間交流研究科目群について 第６回　多文化共生科目群について 第７回　国際交流研究科目群，および多言語情報処理研究科目群について 第８回　日本語教育研究科目群および日本研究科目群について 第９回　宗教・歴史・文化研究科目群について 第１０回　教育科学研究科目軍について 第１１回　自然・環境研究科目群について 第１２回　演習について，およびまとめ なお，この予定は，各研究科目群担当教員の状況により，前後する場合がある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
言語文化学科『演習の手引き』（７月までに配布される予定）	出席をきびしく要求する。くわえて適宜，提出物を要求する。この２項目によって評価を行う。

	哲学Ⅰ	担当者	松丸　壽雄

講義目的、講義概要	授業計画
下記の課題について、概要説明と問題への取り組み方、およびその例が示される。この課題ごとに、グループ分けし、それぞれが興味ある課題と取り組む。さらに後半に時間配分される課題研究発表に向けて、前半部各グループは研究調査および討議により適切な解答を考える。後半には各グループが発表を行い、最後に教師をも含めて、他の学生と共に全体討議を行う。 その課題とは、人間と世界との関係、愛とは、諸文化の交流の意義、意識とは、感情の意味、教養は世界の平和に貢献できるか、他者の意味、幸福と倫理、言語の意味と役割などである。	１．授業概要説明 ２．国際教養学部と哲学 ３．課題説明とグループ分け ４．各グループごとの調査研究 ５．各グループごとの調査研究 ６．第一、第二グループの発表と討論 ７．第三、第四グループの発表と討論 ８．第五，第六グループの発表と討論 ９．第七，第八グループの発表と討論 １０．第九，第十グループの発表と討論 １１．第十一，第十二グループの発表と討論 １２．全体討議
テキスト、参考文献	**評価方法**
追って指示する	授業への取り組み方を調査研究発表態度から判定 および各人のレポートの二つから最終判定

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

	現代世界論	担当者	佐藤　勘治

講義目標

この講義は、現代世界が抱える諸問題を各担当教員およびゲストスピーカーが提示する身近で具体的テーマについて受講生とともに深く考える場とし、後の専門研究へのきっかけとなることを目的とする。一年目の学生が主な履修対象者である。

現代世界は、受講者や担当教員もその構成員であることを忘れてはならない。現代世界の問題は、ほかでもない、われわれ自身の問題であることを講義を通して明らかにしたいと考えている。したがって、ここでいう現代世界は、日本以外の世界という意味ではない。

講義概要

主に言語文化学科所属教員にそれぞれの研究分野との関連から現代世界の抱える諸問題に切り込んでもらう。多文化共生に関わる諸問題がひとつの柱となっている。担当教員の専門分野は、哲学、言語学、文学、歴史、社会学、地域研究、政治学、教育学などである。

第３回では、ジャーナリスト工藤律子氏を招いて、途上国の子どもたちをとりまく状況について講演していただく。工藤氏は、メキシコを中心にしてストリートチルドレン支援運動をおこなっている。また、第10回では、自ら「無国籍」の経験をもつ陳天璽氏を招いて、無国籍者の現状やその問題点を講演していただく予定である。

テーマと順番については、変更の可能性がある。

受講生への要望

各授業の最後に、必ず質問の時間をとるようにしたい。
積極的な発言を期待している。

評価方法

各担当者ごとに、小テストあるいはレポート課題が出される。評価は、それらを総合的に判断してだす。

テキスト、参考文献

陳 天璽『無国籍』（新潮社）2005 年
工藤律子『ストリートチルドレン：メキシコシティの路上に生きる』(岩波ジュニア新書)

授業計画

1　佐藤勘治：
総論 ポストコロニアリズムとグローバル化（4/9）

2　岡村圭子：
グローバリズムは世界を均一化するか？ （4/16）

3　工藤律子（ゲストスピーカー）：ジャーナリスト
真の幸せとは？フィリピン・メキシコの都市と農村の子どもたちをみつめて（4/23）

4　飯島一彦：
多文化社会としての日本（5/7）

5　上村幸治：
大国中国の台頭が意味するものは？（5/14）

6　山本英政：
アメリカ黒人とブラックミュージック（5/21）

7　安井一郎：
日本の教育改革はどこへ向かおうとしているのか？（5/28）

8　平田由紀江：
BoAは「韓流スター」か？（6/4）

9　二宮哲：
言語の死　言語の消滅はしかたのないことか？(6/11)

10　陳 天璽（ゲストスピーカー）：国立民族学博物館助教授
「無国籍」を生きるとは？ (6/18)

11　佐藤勘治：
¿Spanglish? 米国ラティーノたちの未来は？（6/25）

12 松丸壽雄：
現代世界と私たち (7/2)

	英語Ⅰ（IE）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
多様なテーマに基づく統合的学習を行う。主たる学習活動はリーディング及びディスカッションで，テーマに関連した語彙学習も行う。また、より正確かつ効率的に読めるよう、様々なリーディングストラテジーも学習する。テーマの例としては生活や文化など身近な話題を取り上げ，リーディング素材などを通して問題提起を学習した後、ディスカッションや調査によってより深く問題探求することを目標とする。この他に、課外活動として多読学習を取り入れ、英語の読書習慣の形成を図る。授業の使用言語は英語とする。	各担当教員が初回の授業で指示する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
上級 Advanced level: *Exploring Language* (Pearson Education) 中級上 Intermediate high level: *Strategic Reading Ⅲ* (Cambridge University Press) 中級中 Intermediate mid level: *Strategic Reading Ⅱ* (Cambridge University Press) 中級下 Intermediate low level: *Strategic Reading Ⅰ* (Cambridge University Press)	各担当教員による。 Attendance (出席): Regular attendance is a prerequisite. More than 6 absences during the term will result in failure of the course. (出席を大前提とする。7 回以上欠席した場合は不合格とする。)

	英語Ⅱ（IE）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
多様なテーマに基づく統合的学習を行う。主たる学習活動はリーディング及びディスカッションで，テーマに関連した語彙学習も行う。また、より正確かつ効率的に読めるよう、様々なリーディングストラテジーも学習する。テーマの例としては生活や文化など身近な話題を取り上げ，リーディング素材などを通して問題提起を学習した後、ディスカッションや調査によってより深く問題探求することを目標とする。この他に、課外活動として多読学習を取り入れ、英語の読書習慣の形成を図る。授業の使用言語は英語とする。	各担当教員が初回の授業で指示する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期と同じ	春学期と同じ

	英語Ⅰ（W）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
パラグラフライティングの基礎を学ぶ．トピックセンテンスを中心としたパラグラフ内の論理構成は英語の文章表現の根幹をなす重要な学習事項であると同時に，日本語の発想法の根本的転回を求められる挑戦的課題である．この表現方法に習熟することで受容度の高い英文を作成する能力を養成すると同時に，関連科目におけるレポートやリサーチペーパー作成のための枠組みの基礎部分を提供することを目標とする．論理構成法として分類，定義，順序，比較・対照，原因・結果などを扱う．教科書に基づいたフォーマルな課題の練習（Formal writing activities）の他，受講者各自の知識・関心・経験に関連する課題作文の練習（Individualised writing activities）を行う．このほか随時正書法上の重要事項を学習する．授業の主要な使用言語は英語とする．また，課外の作文課題は原則として機械清書をして提出するものとする．	各担当教員が初回の授業で指示する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
上級Advanced level：*Ready to Write More*（Longman） 中級上Intermediate level～中級下Intermediate low level：*Ready to Write*（Longman）	各担当教員による。

	英語Ⅱ（W）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
パラグラフライティングの基礎を学ぶ．「英語Ⅰ（W）」に示した内容と目標を継承し，さらに発展的な学習を行う．論理構成法として分類，定義，順序，比較・対照，原因・結果などを引き続き扱うが，いずれもより高度な内容を含み，より安定したスキルの証明が求められる．教科書に基づいたフォーマルな課題の練習（Formal writing activities）の他，受講者各自の知識・関心・経験に関連する課題作文の練習（Individualised writing activities）を行う．このほか随時正書法上の重要事項を学習する．授業の使用言語は英語とする．また，課外の作文課題は原則として機械清書をして提出するものとする．	各担当教員が初回の授業で指示する。
テキスト、参考文献	評価方法
春学期と同じ	各担当教員による。

	英語Ⅰ（S）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基礎的な言語表現形式を口頭で使いこなす能力を養う．ここでは，音声言語の受容・産出効率を高めるために定型言語形式の使用練習，発音練習，シャドウイングや音読を中心に行う．また，構造的枠組みを分析する意識的作業を軽減させることで，より意味・談話の内容を集中処理できるようになることが期待される．授業の使用言語は英語とする．	1. Introduction to class; [1] Theme 1: Friends (part 1: Introduction; Practice and Discussion; Activities) [2] Unit 1: Self-introduction (part 1) 2. [1] Theme 1: Friends (part 2: Further Activities; Consolidation & Recycling) [2] Unit 1: Self-introduction (part 2) 3. [1] Theme 2: Free Time (part 1: Introduction; Practice and Discussion; Activities) [2] Unit 1: Self-introduction (part 3) 4. [1] Theme 2: Free Time (part 2: Further Activities; Consolidation & Recycling) Topic related to [2] Unit 1 5. [1] Theme 3: The Past (part 1: Introduction; Practice and Discussion; Activities) [2] Unit 2: Introducing Someone (part 1) 6. [1] Theme 3: The Past (part 2: Further Activities; Consolidation & Recycling) [2] Unit 2: Introducing Someone (part 2) 7. [1] Theme 4: The Family (part 1: Introduction; Practice and Discussion; Activities) [2] Unit 2: Introducing Someone (part 3) 8. [1] Theme 4: The Family (part 2: Further Activities; Consolidation & Recycling) Topic related to [2] Unit 2 9. [1] Theme 5: Work (part 1: Introduction; Practice and Discussion; Activities) [2] Unit 5: Books and Movie Reviews (part 1) 10. [1] Theme 5: Work (part 2: Further Activities; Consolidation & Recycling) [2] Unit 5: Books and Movie Reviews (part 2) 11. [1] Theme 6: City Life (part 1: Introduction; Practice and Discussion; Activities) [2] Unit 5: Books and Movie Reviews (part 3) 12. [1] Theme 6: City Life (part 2: Further Activities; Consolidation & Recycling) Topic related to [2] Unit 5 これ以外の学習活動として，定型表現による会話パターン練習，シャドウイング，プレゼンテーション等を行う．
テキスト、参考文献	**評価方法**
統一テキスト：Communication Strategies (Thomson) と Getting Ready for Speech (Language Solutions)	定期試験（口頭）および授業中の課題

	英語Ⅱ（S）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基礎的な言語表現形式を口頭で使いこなす能力を養う．「英語 Ⅰ（S）」に示した内容と目標を継承し，さらに発展的な学習を行う．定型言語形式の使用練習においては，自発的な発話場面においても適切に使用できることを目標とする．加えて，身近なテーマに関するスピーチの練習を行う．特に英語において期待される談話維持能力を獲得するための練習を行い，自然かつ流暢な発話ができることを目標とする．授業の使用言語は英語とする．	各担当教員が初回の授業で指示する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期と同じ	定期試験（口頭）および授業中の課題.

	スペイン語Ⅰ（総合１）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅰは、スペイン語初習者向け入門の授業である。現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。 （総合）は、スペイン語Ⅰの中心となる授業である。文法項目をおいながら基礎的な単語を使った短文を学ぶことで、あいさつや自己紹介ができ、習慣、希望・情報、一日の出来事、予定などを伝え、聞き取ることができる総合的初級スペイン語の習得を目的とする。 なお、この授業はスペイン語 Ⅰ（総合 2）とのペア授業である。	①　ガイダンス ②　発音・アクセント ③　名詞の性・数、冠詞 ④　形容詞 ⑤　ser, estar 動詞の使い方 ⑥　ser, estar 動詞の使い方 ⑦　動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑧　代名詞の用法 ⑨　動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑩　動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ⑪　動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ⑫　動詞の活用 --- 再帰動詞 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入していただきたい。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

	スペイン語Ⅱ（総合 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語 II（総合 1）は､スペイン語Ⅰ（総合 1, 2）の継続の授業である。接続法現在および過去までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。 （総合）は、スペイン語Ⅱの中心となる授業である。文法項目をおいながら基礎的な単語を使った短文を学ぶことで、動詞のすべての活用とその使いかた、および複文を使った多様な表現について、書き、話し、聞き取ることができる総合的初級スペイン語能力の完成を目的とする。 なお、この授業はスペイン語 II（総合 2）とのペア授業である。	①　ガイダンス ②　動詞の活用 --- 再帰動詞 ③　再帰動詞と諸用法 ④　動詞の活用 --- 直説法現在完了形・現在進行形 ⑤　比較表現 ⑥　動詞の活用 --- 直説法点過去 ⑦　動詞の活用 --- 直説法線過去 ⑧　点過去と線過去の違い ⑨　動詞の活用 --- 未来形・過去未来形 ⑩　動詞の活用 --- 接続法現在形規則形 ⑪　動詞の活用 --- 接続法現在形不規則形 ⑫　命令表現 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

	スペイン語Ⅰ（総合 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅰ（総合 2）はスペイン語 Ⅰ（総合 1）とのペア授業である。つまり、受講生は週にスペイン語 Ⅰ（総合 1）と 同（総合 2）のふたつを同時に履修することになる。	スペイン語Ⅰ（総合１）に同じ。
テキスト、参考文献	**評価方法**
スペイン語 Ⅰ（総合 1）（総合）に同じ。	03 年度以降のスペイン語 Ⅰ（総合 1）と同じ評価基準であり、同じ成績がつく。

	スペイン語Ⅱ（総合 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語 II（総合 2）は上記のスペイン語 II（総合 1）とのペア授業である。つまり、受講生は週にスペイン語 II（総合 1）と 同（総合 2）のふたつを同時に履修することになる。	スペイン語 II（総合 1）に同じ。
テキスト、参考文献	**評価方法**
スペイン語 II（総合 1）に同じ。	03 年度以降のスペイン語 II（総合 1）と同じ評価基準であり、同じ成績がつく。

	スペイン語Ⅰ（入門）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅰは、スペイン語初習者向け入門の授業である。現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。 （入門）では、英語以外の言語としてあらたに学ぶことになるスペイン語はどのような言語か、どんな地域で使われているのか、学ぶ意味がどこにあるのかなどについて考え、スペイン語学習の動機付けにする。また、スペイン語Ⅰ（総合1，2）の補いとしてスペイン語を学ぶ大学生が知っておくべき用語・基礎単語、日常会話でよく使われる簡単な構文をつかって作文・聞き取りの練習をする。	学習目標となる文法項目は、スペイン語Ⅰ（総合 1，2）の項目と同じであるが、（入門）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語Ⅰ（総合 1，2）の「授業計画」を参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

	スペイン語Ⅱ（基礎表現）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅰ（入門）の継続の授業である。接続法現在および過去までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。 （基礎表現）では、（総合1，2）の文法項目と語彙を補いながら、基礎的構文を使った表現法をまなぶ。また、簡単な文の読解力の養成を目的とする。	学習目標となる文法項目は、スペイン語 II（総合 1，2）の項目と同じであるが、（基礎表現）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語 II（総合 1，2）の「授業計画」を参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

	スペイン語Ⅰ（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅰは、スペイン語初習者向け入門の授業である。現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。（会話）では、スペイン語Ⅱ(総合 1，2)での文法項目の進展にあわせて、語彙を補いながら基本的な日常会話ができるよう練習を行うことを目的にする。(会話)の担当者は、スペイン語を母国としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。	学習目標となる文法項目は、スペイン語 II(総合 1，2)の項目と同じであるが、(会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語Ⅰ(総合 1，2）の「授業計画」を参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

	スペイン語Ⅱ（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅰ(会話）の継続の授業である。接続法現在および過去までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。 （会話)では、スペイン語Ⅰ(総合 1，2）での文法項目の進展にあわせて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする。(会話）の担当者は、スペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。	学習目標となる文法項目は、スペイン語Ⅰ(総合 1，2）の項目と同じであるが、(会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語Ⅱ(総合 1，2）の「授業計画」を参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

	中国語Ⅰ（総合１）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「学習の基礎となる中国語表音ローマ字（ピンイン）・簡体字等に慣れるとともに，徹底した発音と聞き取りのトレーニングを行い，人称代詞・指示代詞・量詞・前置詞等の虚詞（機能語）を学び，かつ基本的な語順や修飾構造等の文の構成法を身につけ，中国語がどのような言語であるかを知り，その学習の基盤を作る」中国語Ⅰの学習目標の下，文法を中心として全般にわたって総合的に基礎力を養成する。	１～３　　発音・ピンイン ４　基本語順、人称代詞、指示代詞、否定詞“不” ５　反復疑問文、疑問詞疑問文、当否疑問文、連体修飾 ６　形容詞述語文、選択疑問文 中間試験 ７　二重目的文、量詞 ８　連動文、年月日・曜日の言い方 ９　有／没有、几／多少、方位詞、数詞 10　在、金額の表現 11　助動詞、語気助詞“了” 12　動態助詞“了”、禁止の表現、反語の表現 時量・回数と時点、時間量の言い方
テキスト、参考文献	**評価方法**
『中国語一年目の教科書　ユニバーサル・ユース』（好文出版）	授業への出席，授業への積極的参加，授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 適宜小テスト・中間テストを実施する。

	中国語Ⅱ（総合１）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「実詞（名詞・動詞・形容詞等）面においても基本語彙の獲得に務め，その語彙を活用して，簡単な文を作る練習と相手の話す簡単な中国語を聞き取り理解する練習を行い，基礎的なトレーニングを積む。アスペクト体系や補語を用いる表現まで初級段階において習得すべき基本文法事項を学び，中国語学習の基礎力を養成する」中国語Ⅱの学習目標の下，文法を中心として全般にわたって総合的に基礎力を養成する。	１　主述述語文、程度補語、離合詞 ２　進行相、動詞の重ね型 ３　方向補語、結果補語 ４　持続相、可能補語 ５　経験相、将然相、時刻の表現 ６　存現文 中間試験 ７　“把”字文、定着表現、到達表現 ８　比較の表現 ９　受身文 10　様態補語 11　使役文、後置修飾 12　“（是）…的”構文
テキスト、参考文献	**評価方法**
『中国語一年目の教科書　ユニバーサル・ユース』（好文出版）	授業への出席，授業への積極的参加，授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 適宜小テスト・中間テストを実施する。

	中国語Ⅰ（総合２）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「学習の基礎となる中国語表音ローマ字（ピンイン）・簡体字等に慣れるとともに，徹底した発音と聞き取りのトレーニングを行い，人称代詞・指示代詞・量詞・前置詞等の虚詞（機能語）を学び，かつ基本的な語順や修飾構造等の文の構成法を身につけ，中国語がどのような言語であるかを知り，その学習の基盤を作る」中国語Ⅰの学習目標の下，構文・作文力の基礎を養成する。	１～３　発音 ４～６　第１課　姓名の表現 第２課　判断の表現 ７～９　第３課　程度の表現（Ⅰ） 第４課　行為の表現 10～12　第５課　時間の表現 第６課　所有の表現 第７課　存在の表現（Ⅰ） ※　上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『表現の達人Ⅰ』［基本ブック］（白帝社）	授業への出席，授業への積極的参加，授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 適宜小テスト・中間テストを実施する。

	中国語Ⅱ（総合２）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「実詞（名詞・動詞・形容詞等）面においても基本語彙の獲得に務め，その語彙を活用して，簡単な文を作る練習と相手の話す簡単な中国語を聞き取り理解する練習を行い，基礎的なトレーニングを積む。アスペクト体系や補語を用いる表現まで初級段階において習得すべき基本文法事項を学び，中国語学習の基礎力を養成する」中国語Ⅱの学習目標の下，構文・作文力の基礎を養成する。	１～３　第８課　生活習慣の表現 第９課　行為完了の表現 第10課　可能と許可の表現（Ⅰ） ４～６　第11課　願望と感情の表現 第12課　条件と選択の表現 第13課　状態の持続と経験の表現 ７～９　第14課　程度の表現（Ⅱ） 第15課　比較の表現（Ⅰ） 第16課　動作の時間的な量と回数の表現 10～12　第17課　動作の結果の表現（Ⅰ） 第18課　可能の表現（Ⅱ） 復習 ※　上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『表現の達人Ⅰ』［基本ブック］（白帝社）	授業への出席，授業への積極的参加，授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 適宜小テスト・中間テストを実施する。

	中国語Ⅰ（入門）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「学習の基礎となる中国語表音ローマ字（ピンイン）・簡体字等に慣れるとともに，徹底した発音と聞き取りのトレーニングを行い，人称代詞・指示代詞・量詞・前置詞等の虚詞（機能語）を学び，かつ基本的な語順や修飾構造等の文の構成法を身につけ，中国語がどのような言語であるかを知り，その学習の基盤を作る」中国語Ⅰの学習目標の下，発音指導を中心に，簡単な挨拶表現・応答表現などを学ぶ。	１～３　発音 ４～６　第１課 第２課 第３課 ７～９　第４課 第５課 第６課 10～12　第７課 第８課 復習 ※　上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『新版例解中国語入門　你问我答〔第２版〕』（白帝社）	授業への出席，授業への積極的参加，授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 適宜小テスト・中間テストを実施する。

	中国語Ⅱ（基礎表現）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「実詞（名詞・動詞・形容詞等）面においても基本語彙の獲得に務め，その語彙を活用して，簡単な文を作る練習と相手の話す簡単な中国語を聞き取り理解する練習を行い，基礎的なトレーニングを積む。アスペクト体系や補語を用いる表現まで初級段階において習得すべき基本文法事項を学び，中国語学習の基礎力を養成する」中国語Ⅱの学習目標の下，反復練習・暗誦を通し基礎表現を身につけさせる。	１～３　第９課 第10課 第11課 ４～６　第12課 第13課 第14課 ７～９　第15課 第16課 第17課 10～12　第18課 第19課 第20課 ※　上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『新版例解中国語入門　你问我答〔第２版〕』（白帝社）	授業への出席，授業への積極的参加，授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 適宜小テスト・中間テストを実施する。

	中国語Ⅰ（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「学習の基礎となる中国語表音ローマ字（ピンイン）・簡体字等に慣れるとともに，徹底した発音と聞き取りのトレーニングを行い，人称代詞・指示代詞・量詞・前置詞等の虚詞（機能語）を学び，かつ基本的な語順や修飾構造等の文の構成法を身につけ，中国語がどのような言語であるかを知り，その学習の基盤を作る」中国語Ⅰの学習目標の下，中国語を聞き話す楽しさを学ぶ。（積極性を養成する）	１～３　発音 ４～６　第１課　姓名の表現 第２課　判断の表現 ７～９　第３課　程度の表現（Ⅰ） 第４課　行為の表現 10～12　第５課　時間の表現 第６課　所有の表現 第７課　存在の表現（Ⅰ） ※　上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『表現の達人Ⅰ』［発展ブック］（白帝社）	授業への出席，授業への積極的参加，授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 適宜小テスト・中間テストを実施する。

	中国語Ⅱ（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「実詞（名詞・動詞・形容詞等）面においても基本語彙の獲得に務め，その語彙を活用して，簡単な文を作る練習と相手の話す簡単な中国語を聞き取り理解する練習を行い，基礎的なトレーニングを積む。アスペクト体系や補語を用いる表現まで初級段階において習得すべき基本文法事項を学び，中国語学習の基礎力を養成する」中国語Ⅱの学習目標の下，中国語を聞き話す楽しさを学ぶ。（積極性を養成する）	１～３　第 8 課　生活習慣の表現 第 9 課　行為完了の表現 第 10 課　可能と許可の表現（Ⅰ） ４～６　第 11 課　願望と感情の表現 第 12 課　条件と選択の表現 第 13 課　状態の持続と経験の表現 ７～９　第 14 課　程度の表現（Ⅱ） 第 15 課　比較の表現（Ⅰ） 第 16 課　動作の時間的な量と回数の表現 10～12　第 17 課　動作の結果の表現（Ⅰ） 第 18 課　可能の表現（Ⅱ） 復習 ※　上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『表現の達人Ⅰ』［発展ブック］（白帝社）	授業への出席，授業への積極的参加，授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 適宜小テスト・中間テストを実施する。

	韓国語Ⅰ(文法・読解１)	担当者	平田　由紀江

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は韓国語の基礎的知識を習得することを目標とし、主に「読み」「書き」に重点を置く。 ハングルのしくみからはじまって簡単な挨拶、自己紹介、道をたずねる、ショッピングをするなど、旅行や日常生活に必要な基本文と共に、基礎的かつ重要な文法をしっかりと身につけていく。 よく、「韓国語は日本語と似ているから習得しやすい」と言われるが、そうした思い込みは捨てて欲しい。カタカナ読みの韓国語ではなく、「生きた韓国語」に接する機会を出来るだけ多く提供していきたい。	１ハングルのしくみ① ２ハングルのしくみ② ３ハングルのしくみ③ ４あいさつ① ５あいさつ② ６自己紹介① ７自己紹介② ８道をたずねる① ９道をたずねる② 10 ショッピング① 11 ショッピング② 12 カラオケに行く
テキスト、参考文献	**評価方法**
生越直樹・曺喜撤『ことばの架け橋』白帝社 서울대학교 언어교육원 편『한국어 1 Practice Book』	出席、小テスト、期末テスト

	韓国語Ⅱ(文法・読解１)	担当者	平田　由紀江

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は韓国語初級へのステップアップを目標とし、主に「読み」「書き」に重点を置く。 予定をたずねる、説明書を読む、手紙を読む等、より多様な場面で使用される文章を身につけていくとともに、基礎的な文法習得の仕上げをする。 よく、「韓国語は日本語と似ているから習得しやすい」と言われるが、そうした思い込みは捨てて欲しい。カタカナ読みの韓国語ではなく、「生きた韓国語」に接する機会を出来るだけ多く提供していきたい。	１待ち合わせをする ２映画をみる① ３映画をみる② ４キャンパスを歩く① ５キャンパスを歩く② ６予定をたずねる ７説明書を読む ８友達と話す① ９友達と話す② 10 友達と話す③ 11 手紙を読む 12 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
生越直樹・曺喜撤『ことばの架け橋』白帝社 서울대학교 언어교육원 편『한국어 1 Practice Book』	出席、小テスト、期末テスト

	韓国語Ⅰ(文法・読解２)	担当者	平田　由紀江

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は「韓国語Ⅰ(文法・読解１)」で学んだ文法や単語を教室内で使用してみることにより、韓国語の実践力を鍛えることに重点を置く。主に「読み・書き」に力を入れていく。	１ハングルのしくみ① ２ハングルのしくみ② ３ハングルのしくみ③ ４あいさつ① ５あいさつ② ６自己紹介① ７自己紹介② ８道をたずねる① ９道をたずねる② 10 ショッピング① 11 ショッピング② 12 カラオケに行く
テキスト、参考文献	**評価方法**
生越直樹・曺喜撤『ことばの架け橋』白帝社 서울대학교 언어교육원 편『한국어 1 Practice Book』	出席、小テスト、期末テスト

	韓国語Ⅱ(文法・読解２)	担当者	平田　由紀江

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は「韓国語Ⅱ(文法・読解１)」で学んだ文法や単語を教室内で使用してみることにより、韓国語の実践力を鍛えることに重点を置く。 また、韓国語初級へのステップアップを目標とし、主に「読み・書き」に力を入れていく。	１待ち合わせをする ２映画をみる① ３映画をみる② ４キャンパスを歩く① ５キャンパスを歩く② ６予定をたずねる ７説明書を読む ８友達と話す① ９友達と話す② 10 友達と話す③ 11 手紙を読む 12 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
生越直樹・曺喜撤『ことばの架け橋』白帝社 서울대학교 언어교육원 편『한국어 1 Practice Book』	出席、小テスト、期末テスト

	韓国語Ⅰ（コミュニケーション1）	担当者	金　秀晶

講義目的，　講義概要	授業計画
韓国語初習者向けの授業。文法・言語文化的基礎知識・会話の構成をとる。文法の授業では項目をおいながら基礎的な表現とその聞き取りができる総合的能力の習得を目的とする。	1. ハングルの紹介 2. 母音字（短母音、二重母音など） 3. 子音字（平音、激音、濃音、鼻音、流音） 4. バッチム 5. ハングル keyboard 練習 6. 聞き取り練習・発音練習 7. 第1課　基本文型　@は何すか。@です。 8. 第3課　自己紹介 9. 第5課　否定文 10. 第7課　時間の表現（曜日） 11. 第9課　過去時制 12. 復習(聞き取り練習・発音練習)
テキスト、参考文献	**受講条件・評価方法**
ソウル大学言語教育院　『韓国語1』Moonjin Media，2006 油谷幸利著　『総合韓国語1』，白帝社，2006	受講条件：言語習得のための積極的な activity 参加が必要。出席100%が原則 評価方法：出席30%、期末試験30%、小テスト30%、課題提出10%

	韓国語Ⅱ（コミュニケーション1）	担当者	金　秀晶

講義目的，　講義概要	授業計画
韓国語Ⅰに引き続き、文法では、連体形までの基礎的文法事項をまなび初級文法を終える。初級学習者に不足しがちな語彙力の増加、見落としがちな正しい発音への矯正にも配慮する。韓国語を学ぶ上での言語文化的基礎知識の一層の獲得を目指す。	1. 前期の復習 2. 第11課　電話の表現（意志表現、　否定表現） 3. 第13課　注文 4. 第15課　交通（目的表現、指示表現） 5. 第17課 6. 復習(韓国歌・聞き取り練習など) 7. 第19課 8. 第21課 9. 第23課 10. 復習(語彙・聞き取り・activity など) 11. 第25課 12. 第27課
テキスト、参考文献	**受講条件・評価方法**
ソウル大学言語教育院　『韓国語1』Moonjin Media，2006 油谷幸利著　『総合韓国語1』，白帝社，2006	受講条件：言語習得のための積極的な activity 参加が必要。出席100%が原則 評価方法：出席30%、期末試験30%、小テスト30%、課題提出10%

	韓国語Ⅰ（コミュニケーション2）	担当者	金　秀晶

講義目的，　講義概要	授業計画
韓国語初習者向けの授業。文法・言語文化的基礎知識・会話の構成をとる。文法の授業では項目をおいながら基礎的な表現とその聞き取りができる総合的能力の習得を目的とする。	1. ハングルの紹介 2. 母音字（短母音、二重母音など） 3. 子音字（平音、激音、濃音、鼻音、流音） 4. バッチム 5. ハングル keyboard 練習 6. 聞き取り練習・発音練習 7. 第 2 課　基本文型　はい、@です。いいえ、@ではありません　など。 8. 第 4 課　場所表現、敬語 9. 第 6 課　天気の表現 10. 第 8 課　位置と数字(ㅗform) 11. 第 10 課　不規則動詞変化・漢数字 12. 復習(聞き取り練習・発音練習)
テキスト、参考文献	受講条件・評価方法
ソウル大学言語教育院　『韓国語 1』Moonjin Media，2006 油谷幸利著　『総合韓国語 1』，白帝社，2006	受講条件：言語習得のための積極的な activity 参加が必要。出席 100%が原則 評価方法：出席 30%、期末試験 30%、小テスト 30%、課題提出 10%

	韓国語Ⅱ（コミュニケーション2）	担当者	金　秀晶

講義目的，　講義概要	授業計画
韓国語Ⅰに引き続き、文法では、連体形までの基礎的文法事項をまなび初級文法を終える。初級学習者に不足しがちな語彙力の増加、見落としがちな正しい発音への矯正にも配慮する。韓国語を学ぶ上での言語文化的基礎知識の一層の獲得を目指す。	1. 前期の復習 2. 第 12 課　買い物 3. 第 14 課　交通（理由、義務などの表現） 4. 第 16 課　招待（不規則表現、時間表現） 5. 第 18 課 6. 復習(韓国歌・聞き取り・activity など) 7. 第 20 課 8. 第 22 課 9. 第 24 課 10. 復習(語彙・聞き取り・activity など) 11. 第 26 課 12. 第 28 課
テキスト、参考文献	受講条件・評価方法
ソウル大学言語教育院　『韓国語 1』Moonjin Media，2006 油谷幸利著　『総合韓国語 1』，白帝社，2006	受講条件：言語習得のための積極的な activity 参加が必要。出席 100%が原則 評価方法：出席 30%、期末試験 30%、小テスト 30%、課題提出 10%

	スペイン・ラテンアメリカ研究入門Ⅰ（スペイン）	担当者	二宮　哲

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン・ラテンアメリカ研究入門Ⅰ（スペイン） は、前半から８回の授業分、主にスペインに関する地域研究入門の授業を二宮が行い、後の４回を浦部が担当し、主にラテンアメリカ（特にラテンアメリカとスペインの関係）に関する地域研究入門の授業を行う。特にスペイン語を学ぶものにとっては最低限知っておかなければならない基礎的知識の獲得を第一の目的とする。 講義は、各自の専門分野にそって、該当地域の歴史、地理、社会、言語事情の基礎を講義する。簡単な課題を与える場合がある。 なお、秋学期に開講される「スペイン・ラテンアメリカ研究入門Ⅱ（ラテンアメリカ）」と関連性・連続性が強いため、秋学期には左記授業を選択することが望ましい。	<u>スペイン</u> 1. 世界のスペイン語 2. イベリア半島の地理・言語状況 3. カタルーニャの言語文化 1. 4. カタルーニャの言語文化 2 5. バスク、ガリシアの言語文化 6. アンダルシーアの言語文化 7. フラメンコと闘牛というスペイン像 8. 内戦と現代スペイン <u>スペインとラテンアメリカ</u> 1. 中南米の地域区分と地理･言語状況 2. 宗教と価値規範（カトリック教、避妊論争） 3. 家族と人間関係（コンパドラスゴと家父長制） 4. 政治と社会変動（南欧･中南米の権威主義と民主化）
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント等随時配布。	学期末の試験による。

	スペイン･ラテンアメリカ研究入門Ⅱ（ラテンアメリカ）	担当者	佐藤　勘治

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、スペイン・ラテンアメリカ研究入門Ⅰ（スペイン）の続きであり、主にラテンアメリカを対象とした地域研究入門の授業である。春学期に引き続いて、スペイン語履修者であれば知らなければならない基礎的知識を修得し、ラテンアメリカの魅力と抱えている問題の理解を目的としている。前半４回は、浦部が担当し環境と経済問題を中心に、後半８回は佐藤が歴史と文化を中心に論じる。 高校での地理、世界史など授業においてラテンアメリカ関係の項目は限定されているが、それでもいくつかは教えられている。ここでは、それらの基礎知識を確認するだけでなく、ラテンアメリカの人びととその社会の現状を知るために不可欠な幅広い知見を獲得してもらいたい。 春学期授業とセットで履修することを希望する。 スペイン・ラテンアメリカ研究を研究課題にしたいと考えている人は必須の授業である。	<u>ラテンアメリカの環境と社会　(担当：浦部)</u> 1. アンデスの自然環境と伝統的生業 2. アマゾンの自然環境と伝統的生業 3. 貧困・開発と環境問題（森林破壊） 4. 貧困・開発と環境問題（農村と都市） <u>ラテンアメリカの歴史と文化　(担当：佐藤)</u> 1. 歴史のおもみ：ラテンアメリカの「人種」・エスニック集団の分布と特徴 2. 征服期：先コロンブス期のアメリカ、コロンブス、アステカとインカの征服 3. 植民地時代、独立と国家形成期 4. 20 世紀ラテンアメリカ史１： 5. 20 世紀ラテンアメリカ史２：キューバ革命、チリ革命、ニカラグア革命、中米紛争、冷戦後 6. 米国ラティーノの歴史と文化 7. 現代のラテンアメリカ文化と社会１ 8. 現代のラテンアメリカ文化と社会２
テキスト、参考文献	**評価方法**
レジメを用意する。 参考文献：増田義郎『物語ラテンアメリカの歴史』中公新書	積極的な授業参加 期末テスト、簡単な課題を課す場合がある。

	中国研究入門	担当者	上村　幸治

講義目的、講義概要	授業計画
現代中国を考える上での基礎知識を身に付けるとともに、将来研究する人にとってはその手がかりを得られるよう、中国社会の基本的な成り立ちについて調べていく。 できるだけ、現在起きている事象、具体的な事件を取り上げ、抽象論ではなく、実証的に現実の中国にアプローチする。 まず歴史的な視点から中国の成り立ちについて考える。その上で、中国を構成する民族、宗教、言語、習慣などについても考察する。国際社会との関わりについても調べていく。 中国の文化（文学や映画など）とからめながら、政治制度、経済制度、社会システムについて取り上げ、日本などと比較していくことにする。そのために、日本の作家、夏目漱石や芥川龍之介らの中国観にも触れていく。	１　中国を知るために ２　現代中国と歴史の複雑な関係 ３　西遊記と少数民族の不思議な世界 ４　三国志と現代政治 ５　中国映画の変遷 ６　文学、文藝作品（漱石、芥川と魯迅） ７　社会事情（人口、環境問題など） ８　経済社会体制の変化 ９　社会風俗 １０都市の表情、農村の課題 １１地域の特色 １２まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
上村幸治著『中国のいまがわかる本』岩波ジュニア新書 上村幸治著『中国路地裏物語』岩波新書	出席、レポート、試験など

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

	韓国研究入門	担当者	平田　由紀江

講義目的、講義概要	授業計画
現代韓国への旅 本講座は、韓国研究のための最初の一歩である。「韓国を旅する」という設定で、現代韓国に関する基本的な知識を総合的に幅広く身につけることを目標とする。同時に、日本から韓国へ、そして再び日本へという旅のルートを通じて、現代韓国を「まなざす」とはどういうことかについても触れていく。 履修者には、課題の提出と積極的な授業への参加が期待される。	1 朝鮮半島を知ろう－旅の準備 2 韓国の若者と出会う 3 韓国のインターネット事情 4 韓国大衆文化事情－Kpop の世界へ 5 グローバルシティ・ソウル 6 政治から文化へ 7 ソウル・オリンピック 8 朝鮮半島とアメリカ 9 独裁政権と民主化の記憶 10 朝鮮戦争と南北分断へのまなざし 11「朝鮮近代史と日本」について考える 12 まとめ－再び日本へ
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜プリントを配布する予定。	出席、小レポート提出（5 回）および期末レポート。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

	日本研究Ⅰ（日本文学古典）	担当者	福沢　健

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 日本の古典文学史は、上代(奈良)・中古(平安)`中世(鎌倉・室町)・近世(江戸)の五つの時代に区分される。限られた時間の中でこの全ての時代のテクストを取り扱うことは不可能なので、春学期は奈良時代の文学テクストについて講義する。  講義概要 奈良時代の文学テクストの代表的なものは、古事記・万葉集・風土記である。この中で、興味が持てそうなストーリーを持った、古事記・風土記に載せられている神話`伝説を取り扱う。具体的には、古事記のヤマタノヲロチ神話-風土記の水江の浦島子の伝説を題材として、上代と現代の人々の考え方(特に自然観)の違いについて話をしていきたい。それに際して、同一のテーマを扱った現代のファンタジーの作品として、宮崎駿の「もののけ姫」についても扱うことを予定している。なお、文学 a(日本文学一上代から中古前期)とは内容が重なるものなので、受講できない。	1 はじめに 2 ヤマタノヲロチ神話を読む① 3 ヤマタノヲロチ神話を読む② 4 ヤマタノヲロチ神話を読む③ 5 宮崎駿「もののけ姫」を見る① 6 宮崎駿「もののけ姫」を見る② 7 宮崎駿「もののけ姫」を見る③ 8 ギルガメシュ叙事詩を読む 9 水江の浦島子伝説を読む① 10 水江の浦島子伝説を読む② 11 水江の浦島子伝説を読む③ 12 まとめ 授業時に配布したプリントは、 http://www.geocities.jp/nofukuzawa/ に載せてあります。休んだ人は、そこからダウンロードしてください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　なし 参考文献　授業時に指示する	試験・レポート・出席の総合点によって決める。

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

	日本研究Ⅱ（日本文学現代）	担当者	佐藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 現代日本におけるベストセラーの傾向と特色を分析することで、現代人がどのような世界に住み、どのような世界を望んでいるか考察する。 〔講義概要〕 現代文学のベストセラーを詳細に分析する。秋学期は「癒しの現代文学」と題して、癒しややさしさを扱った作品をブックレビューし、その本質に迫る。 〔受講生への要望〕 講義で紹介した作品は、できるだけ読破してほしい。読書の必要性とか重要性ではなく、読書の楽しみを伝えて行くことが目的なので、とにかく楽しんでほしい。	癒しの現代文学 ①　癒しの現代文学のアウトライン ②　③　④　⑤ 人間関係による癒しの造形 【家族編・友人編・恋人編】 重松清。恩田陸。浅田次郎。市川拓司。村上龍。 村上春樹。ほか。 ⑥　⑦ 日常のリセットによる癒しの造形 庄司薫。宮本輝。山田詠美。ほか。 ⑧　⑨ 笑いによる癒しの造形 奥田英朗。佐藤多佳子。ほか。 ⑩　⑪ タイムスリップによる癒しの造形 北村薫。浅田次郎。佐藤正午。宮部みゆき。ほか。 ⑫ 美しい生き方による癒しの造形 藤沢周平。浅田次郎。ほか。 ⑬以降　　総集編
テキスト、参考文献	**評価方法**
その都度紹介する。	出席。レポート。

	日本研究Ⅲ（日本史 a）	担当者	丸浜　昭

講義目的、講義概要	授業計画
1945.8.15 に終わった戦争で、日本はどこに敗けたと思っているか。この戦争のことを、普通、何と呼ぶか。そもそもこの戦争は、いつ、どこで始まったのか。これらの問いへの答えをみると、日本人のこの戦争への認識が浮かび上がってくる。戦後 60 年を越えた今日でも、首相の靖国神社参拝にもみられるように、日本人のこの戦争への認識は多くの課題をかかえており、政治的な争点にもなっている。春は、現代との関わりを意識しながらこの戦争をとらえることを中心課題とする。 そのために、被害や加害の事実をしっかりとみたい。見るのがつらいところもあるが、ビデオをいくつか使う。そうして、教育や社会の状況も含めてこの戦争の全体像を考えてみたい。	1　8.15 に終わった戦争の呼称・相手をめぐって 2　真珠湾からか、コタバルからか 3　被害の問題①―空襲は何を示すか 4　被害の問題②―原爆投下をどうとらえるか 5　加害の問題①―731 部隊とは何か 6　加害の問題②―南京事件をどうとらえるか 7　加害の問題③―強制連行と従軍慰安婦 8　兵士と民衆①―日本軍隊の特徴をみる 10　兵士と民衆②―教育でどう兵士が育てられたか 11　兵士と民衆③―荷担と抵抗をめぐって 12　まとめとして―戦争の全体像を考える
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業の中で紹介する	定期試験の時間の中で、論述の形式で試験を実施する 出欠等による平常点をいくらか加味する予定

	日本研究Ⅳ（日本史 b）	担当者	丸浜　昭

講義目的、講義概要	授業計画
「15 年戦争」は、戦後 60 年を越えた今日でも、日本と中国、韓国の間で問題になっているように、日本の社会に大きな課題を残している。そこには、戦争そのものの問題だけでなく、戦後史のさまざまな局面の中でこの戦争がどうとらえられ、どう処理されてきたか、ということがからんでいる。たとえば、戦後の日米関係が賠償問題や日本人の戦争認識に大きな影響を与えてきた事実がある。今もなお、中国や韓国・朝鮮の人々から戦後補償が求められる背景には、この戦後の歴史がある。 秋は、戦後の出来事を取り上げて、戦争の実相もふり返りながら、日本の政府が、また民衆が、この戦争をどうとらえどう対処し、どのような課題を残してきたのか考えてみたい。	1　沖縄戦が私たちに投げかけたこと 2　本土決戦と日本の戦争の終わり方 3　日本国憲法はどう生まれたか 4　サンフランシスコ講和のもった問題 5　内外での補償・賠償をめぐって 6　日本とドイツの戦後補償 4　東京裁判をめぐって 7　日韓条約はなぜ 1965 年に結ばれたか 8　日中国交回復への道のり 9　「731 部隊展」の取り組みが意味したこと 10　アジアの民衆からの戦後補償要求 11　戦後 50 年の国会決議をめぐって 12　過去の戦争と現代の戦争
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業の中で紹介する	定期試験の時間の中で、論述の形式で試験を実施する 出席点等による平常点をいくらか加味する予定

	日本研究Ⅴ（日本経済論 a）	担当者	波形　昭一

講義目的、講義概要	授業計画
現在の日本経済を理解するには、その生い立ちを知っておくことが重要である。とりわけ高度成長期についての知識が不可欠である。そのため「日本経済論 a」では、高度成長期における日本経済の問題を中心に講義する。 なお、本講義は内容上、春期・秋期を通して聴講するのが望ましい。	1．はじめに 2．戦後民主化政策と経済改革 3．戦後経済復興対策 4．ドッジ・ラインとシャウプ勧告 5．朝鮮戦争と日本経済 6．高度成長時代の到来 7．高度成長の構造 8．高度成長の精神的土台 9．高度成長の時代背景 10. 高度成長の終焉(1)　ドル・ショック 11. 高度成長の終焉(2)　オイル・ショック 12. 日本経済の構造転換
テキスト、参考文献	**評価方法**
主に統計表などのプリントを配布。	学期末試験の結果（通年講義は春期・秋期の合計）で評価する。相対評価方法を採用。

	日本研究Ⅵ（日本経済論 b）	担当者	波形　昭一

講義目的、講義概要	授業計画
1970 年代後半から日本経済をめぐる内外の諸環境は大きく変化し、その結果として現在の日本経済がある。したがって「日本経済論 b」では、春学期の講義をふまえつつ、70 年代後半からの日本経済の構造変化、その結果としてのバブル経済と「失われた 10 年」について論述し、そのうえで近年たたかわされた日本経済再建論議の当否と小泉内閣の構造改革の位置づけを試みたい。 なお、本講義は内容上、春期・秋期を通して聴講するのが望ましい。	1．スタグフレーションとその原因 2．レーガノミクスとアメリカ経済 3．プラザ合意後の経済変化 4．バブル経済の発生とその原因 5．バブル経済の崩壊 6．平成不況の特徴　―複合不況― 7．「失われた 10 年」とその意味 8．景気対策か構造改革か(1) 9．景気対策か構造改革か(2) 10. 小泉内閣の構造改革を問う(1) 11. 小泉内閣の構造改革を問う(2) 12. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
春期と同じ。	春期と同じ。

	日本研究Ⅶ（日本文化論）	担当者	飯島　一彦

講義目的、講義概要	授業計画
「日本文化」と言うときの「日本」とは何か？「文化」とは何か？そのようなラディカルな問いかけをしなければ、現在の我々が直面する多文化・多言語環境を迎えた「日本」と向き合うことは出来ない。日本は世間一般がぼんやりと信じている単一民族国家でもないし単一言語国家でもないのである。当然そこに見られる「文化」も決して単純で直線的な、いわば教科書記述的な歴史を持っているわけではない。そしてまた、それは日本に限ったあり方でもない。 文化とは、「ある特定の人間集団が生活をし、それを維持するために必要と考える心の動きが形として表れたもの」の総体を指す。決して優れた美術作品や代表的な建築のみを言うのではない。 種々の相を複雑に展開する「日本文化」について、その歴史的複合重層性への理解を基本に様々な問題を概括的に考えていく。	1　オリエンテーション・導入 日本とは？文化とは？ 2　日本文化の歴史的複合重層性 外からの刺激と内的発展 3　日本は閉鎖的な国か？ 海の道、人と人との行き来 4　「日本」という国号 もともと日本に「日本」はなかった 5　「日本」という地域 どこまでが「日本」か？ 6　文字の輸入の意味 漢字・片仮名・平仮名 7　ものの行き来、人の行き来 海外の日本、日本の海外 8　奈良東大寺正倉院とシルクロード 仏教・音楽・工芸 etc 9　律令の輸入 大君・天皇・国王・将軍・国家 10　「鎖国」とは何か 開かれていた国「日本」 11　明治維新の文化的意味付け 「和魂洋才」の意義 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
【参考文献】日本史年表と国語便覧（大学受験程度の内容、どこの出版社のものでも可、できれば図版を多く載せるもの、世界史との対照ができるもの）	学期末試験（論述式）の成績による。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

	多言語間交流研究Ⅰ（言語学 a）	担当者	安間　一雄

講義目的、講義概要	授業計画
言葉の仕組みと役割を客観的に記述する学問である言語学とはどのような分野なのかを概観する．ここでは言語学の応用的領域を取り上げ，社会における言語の機能を理解すると共に，その背景にある基本的な考え方を学ぶ．主として英語を対象言語とするが，必要に応じて他の言語も扱う．また，言語学の周辺領域（考古学・医学・物理学・電子工学・数学）における言語研究にも言及する． 参考資料の事前読了および授業用 WWW サイトの参照を前提とする．	1. 話し言葉と書き言葉 ―言葉は約束事　ー言語学の研究対象，言語を記録する体系，ローマ字表記 2. 動物の言語と人間の言語 ―チンパンジーも言葉が話せる？　ーWashoe, Sarah, Ai, Kanji に見る動物のコミュニケーション 3. 言語と脳 ―失われた言葉を取り戻す　ー心理言語学と大脳生理学 4. 子供の言葉の発達 --どのようにして言語を習得するか？　ー第 1 言語の発達過程 5. 外国語の上達 ―どのようにしたらうまく話せるようになるか？　ー第 2 言語の習得理論 6. 音と音声 ―カテゴリーができるまで　ー調音音声学と音韻論，音響音声学 7. 統語論 ―「正しい」言葉の記述 vs 言葉の「正しい」記述　ー構造主義文法，生成文法，その他の文法 8. 形と意味 ―発話に意味を込める　ー意味論，語用論 9. 会話の原則 ―言葉の適切な使い方　ー談話分析 10. 言語と社会 ―言葉の多様性と普遍性　ー社会言語学 11. 世界の言語とその系統 ―言語の進化と分類　ー言語の系統（印欧・非印欧），言語と人類の発達 12. コンピューターと言語 ―近未来の言語研究　ー人工知能，機械翻訳，コーパス言語学
テキスト、参考文献	**評価方法**
G. ユール／今井・中島訳 『現代言語学 20 章』(大修館, 1987; ISBN: 4-469-21145-1) 参考文献は授業開始時に指示する．	定期試験及び授業中の課題．

	多言語間交流研究Ⅱ（言語学 b）	担当者	安間　一雄

講義目的、講義概要	授業計画
人間の言語は動物のそれと異りアナログ的要素と共にデジタル的要素がある．メッセージを単位記号（デジタル信号）に置き換えることでコミュニケーションの媒体となり，文学ばかりでなく政治や科学などの社会を構成する要素が確立したのである．この授業では言語の基本的な構造を取り上げ，理論的枠組みを理解すると共に，ハンズオン的学習を通して言語資料の分析練習を行う．対象言語は英語を初め各国語にわたる．	1. 形態論（1）（分綴法） 2. 形態論（1）（接辞，屈折・活用） 3. 音声学・音韻論（1）（発音記号） 4. 音声学・音韻論（2）（音素・異音，発音の変異） 5. 音声学・音韻論（3）（強勢・イントネーション） 6. 音声学・音韻論（4）（生成音韻論） 7. 統語論（1）（IC 分析，句構造規則） 8. 統語論（2）（構造形成，語順，格） 9. 意味論（1）（上位概念・下位概念，同意語・反意語） 10. 意味論（2）（メタファー，指示） 11. 語用論（限定，言語行為，話題化） 12. 談話（談話構造，スクリプト，スキーマ）
テキスト、参考文献	**評価方法**
Paul R. Frommer & Edward Finegan, *Looking at Languages: a Workbook in Elementary Linguistics, 2nd ed.* (Harcourt Brace College Publishers, 1999; ISBN: 0-15-507826-7) 参考文献は授業開始時に指示する．	定期試験及び授業中の課題．

	多言語間交流研究Ⅲ（英語学 a）	担当者	安間　一雄

講義目的、講義概要	授業計画
英語学の基礎的諸領域の広範な理解を目標とする．また，これと並行して英語の実践的運用能力を高めることにも関連づける．それぞれのテーマについて理論的研究を紹介した後，実際に当該項目が習得されるよう訓練を行う．講義支援システムを利用して集中的学習を行う予定．扱う領域としては発音・音声学・形態論・統語論・意味論・語用論などがある．随時，日本語との対照学習を取り入れ，外国語としての英語学習が容易になるよう試みる． 授業外における練習課題の遂行と学習記録の継続が強く求められる．	1. スタディースキル（辞書利用法・ノートの取り方等） 2. 発音記号・スピーチクリニック・フォニックス・韻律（1） 3. 発音記号・スピーチクリニック・フォニックス・韻律（2） 4. 音声学・音韻論（1） 5. 音声学・音韻論（2） 6. 形態論・語形成（1） 7. 形態論・語形成（2） 8. 統語論（1） 9. 統語論（2） 10. 意味論・語用論（1） 11. 意味論・語用論（2） 12. コーパス研究
テキスト、参考文献	**評価方法**
石黒昭博他，『現代英語学要説』（南雲堂，1987；ISBN: 4-523-30047-X） 参考文献は授業開始時に指示する．	定期試験及び授業中の課題．

	多言語間交流研究Ⅳ（英語学 b）	担当者	安間　一雄

講義目的、講義概要	授業計画
前半は英語の歴史の概観を通して，英語世界がいかに成立し，どのような言語・文化を発達させてきたかを学ぶ．視聴覚資料を補助的に用い，学習を支援する．また，英語史に関連する観光スポットを随時紹介する． 後半は英語を特徴づけ，他の言語と区別するいくつかの側面を取り上げ，現代社会における英語の位置づけを学ぶ．受講者による調査とプレゼンテーションの機会を多く設け，主体的な問題意識の掘り起こしを行う． 参考資料の事前読了および授業用 WWW サイトの参照を前提とする．	1. 英語以前 —ゲルマン語族の成立 2. 伝説時代の英語 —古英語とその社会 3. 英語の夜明け —中世とは？そしてその英語 4. 英語の充実 —初期近代英語とイギリス社会の発展 5. 英語の黄金期 —近代英語とヴィクトリア朝文化 6. 英語の多様性 —イギリスの英語から世界の英語へ（地理的変異） 7. 語彙・語源 —本来語・借入語・外来語・固有名詞・スラング 8. 英語の文法の特徴 —語順・修飾・統御 9. 英語の発音と綴り —大母音推移・発音・文字・正書法 10. 英語の談話構造 —パラグラフ構造・新旧情報・含意・スキーマとスクリプト 11. 社会的変異 —社会階層・レジスター・ジャンル 12. 英語使用の現状 —公用語・第 2 言語・英語学習・辞書
テキスト、参考文献	**評価方法**
R. McCrum, W. Cran, & R. CacNeil, *The Story of English: Special Complete Edition*（マクミランランゲージハウス，1989；ISBN: 4895850242） 参考文献は授業開始時に指示する．	定期試験及び授業中の課題．

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

	多言語間交流研究Ｖ（英語圏の文学）	担当者	佐藤　勉

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目標 　今は、宇宙から地球を眺め、その地球をだんだんズームインして、日本へ、そして自分の住んでいる地域の番地をパソコンに打ち込むと見事に自分の家までピンポイントの正確さでヒットすることができるようになりました。「英語圏の文学」という題目は私にとってこの地球に相当するほどの巨大かつ膨大なものです。私のやってきたことはその針の先端になります。それでも、時々その針の先端を少し動かして他の場所をクローズアップしてみるのは楽しいことです。その針の先端を少しずつ動かして何が見えるかを案内してみること、そしてその中にもっと深く入り込んで見てみたいという興味を引き起こすことがこの授業の目標と考えています。 講義の概要 　文学は言葉によって表現される代表的な表象です。書かれたもの、すなわち文学の作品はその言葉が紡ぎ出す見事な織物です。この授業では、その言葉の色彩や織り方、できあがった織物がどんなものになるかをみていくことです。織物は織り上げる人の心が込められ、またすぐれた技によって織られていますから、その心と技を理解することがないと織物の本質や良さが分かりません。しかも織られた作品一つ一つは生きています。それは作品全体が一つの生き物ですから、小さな部分にも血が通っています。どんな血が流れているのかはその作品が生まれた時代的、文化的背景によって違いますが、一つだけ共通しているのはどの作品にも私たちと同じ人間性の不思議さと驚異が流れていることです。	授業計画 授業ではハンドアウトのテキストを中心に重要な箇所を読んだり、説明したりしますので、以下に掲げる１時限ごとのシラバスは大体の順序と内容と考えてください。授業によっては以下に示された通りには進まない時があるかも知れませんので、この点を承知しておいてください。 半期完結授業 １．Introduction：　読書の楽しみ。私の英米文学への興味の始まり （１）文学と言葉について　（２）言葉の意味とその文学的広がり、あるいは変化　（３）Simplicity、Freshness、Precision、Vigor （４）文体について ２．多様な作品を例に読んでみます。 （１）The Kitchen at Harmonie　（２）Life in America （３）The Unicorn in the Garden （４）A Very Short Story　（５）The Helmsman　（６）Others ３．英語圏の文学と社会について ４．前の授業の続き ５．前の授業の続き ６．英語圏の文学とキリスト教 ７．前に授業の続き ８．前の授業の続き ９．文学のジャンルについて （１）Verse と（２）Prose について １０．その構造について （１）プロットとストリーの重要性について （２）登場人物の設定　（３）プロットの構成と展開 １１．その内容について：言葉と修辞（レトリック）の重要性について （１）Metaphor、Metonymy、Repetition、Paradox、synecdoche、Imagery などの効果について、など （２）その他のレトリックについて １２．　講義のまとめとレヴュー

テキスト、参考文献	評価方法
テキスト：作品のハンドアウト一週間前に手渡しますので、それを予習してくると一層話の内容がよく理解できるようになると思います。 参考文献：Laurence D. Lerner. *English Literature: An Interpretation for Students Abroad* . OUP-London and The Eihosha Ltd. Tokyo. 上記のテキストは非常に良く、分かりやすくできています。 また VTR を見て、書かれた言葉がどんな風に演じ、話されるかを確かめることも効果的な素材となります。	３分の２以上の出席を求めます。短い感想文（レポート）の提出があり、それを評価しますが、学期末の定期試験が成績評価の基本です。 受講生に対する要望等 大切なことはしっかりとノートテーキングすること。 また文学・文化、また、ものの見方、考え方に興味を持つこと。

	多文化共生研究Ⅰ（文化人類学 a）	担当者	井上　兼行

講義目的、講義概要	授業計画
文化人類学は、現在消えつつある「未開」社会と呼ばれる社会の文化を、異文化として理解しようとする学問である。a においては、この学問の形成の歴史、対象、方法などを学ぶ。	1　どんな学問か 2　概説書の紹介 3　文化人類学前史(1) 4　同上　　(2) 5　同上　　(3) 6　文化人類学の誕生へ 7　対象としての「文化」の概念(1) 8　同上　　(2) 9　初期の視点――歴史的視点 10 視点の転換――現在的視点へ 11 方法としての実地調査(1) 12 同上　　(2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはない。参考文献は随時紹介する。	定期試験期間中の試験による。

	多文化共生研究Ⅱ（文化人類学 b）	担当者	井上　兼行

講義目的、講義概要	授業計画
a で学んだことを基礎に、「未開」文化の事例を具体的に示し、それをどのように理解するかを学び、またそれを通してわれわれの文化について意識化し、検討を加えうることを学ぶ。	事例としては、「経済」「婚姻・家族・親族」「宗教・儀礼」などを考えているが、話のつながり具合によって決める。ビデオを見てもらう機会もある。テーマとおおよその順序については第 1 回の講義で述べる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはない。参考文献は随時紹介する。	定期試験期間中の試験による。

	多文化共生研究Ⅲ（社会学 a）	担当者	岡村　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
私たちのまわりには、さまざまな他者がいる。電車で隣に座った人も他者であり、家族や親しい友人も、ある意味では他者である。たいていの場合、他者は自分の思い通りに動いてはくれない。しかし、多少なりともそういった他者と社会的関係を持たなくては、私たちは生活できない。社会は、他者とともに生きる世界である。それゆえ、社会を扱う学問である社会学では、「他者 other(s)」が重要なキー概念のひとつとなっている。さらに言えば、他者について考えることは、「自己（わたし）」について考えることでもある。とくに本講義では、社会学がこれまで関心を寄せてきた諸概念をとりあげ、それを現代的な文脈で考えてみたい。 本講義のねらいは、「社会学」という学問が、どういった経緯で成立したか、また社会学的視点、社会学的な考察とは、どういったものか、さらに社会集団の類型やアイデンティティ形成のメカニズムについて学び、それをとおして社会における自己と他者についての関係を考えることである。	１．イントロダクション――社会学的な視座とは ２．社会学の歴史（１）――A.コント、H.スペンサー ３．社会学の歴史（２）――E.デュルケム ４．社会学の歴史（３）――M.ウェーバー ５．社会の類型（１）――コミュニティとアソシエーション ６．社会の類型（２）―ゲマインシャフトとゲゼルシャフト ７．社会の類型（３）――第一次集団 ８．Identity形成と社会（１）――鏡に映った自己 ９．Identity形成と社会（２）――重要な他者 １０．Identity形成と社会（３）――マージナル・マン １１．補完的アイデンティティについて １２．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
G.ジンメル『社会学の根本問題（個人と社会）』世界思想社 E.デュルケム『自殺論』中央公論社 M.ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』 G.H.ミード『社会的自我』恒星社厚生閣	出席とレポート

	多文化共生研究Ⅳ（社会学 b）	担当者	岡村　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
わたしたちは、つねに安穏とした平和な社会だけに生きているわけではない。他者と共に生きる社会は、大小問わずさまざまな問題を抱えている。そういった問題を社会学では、どのように研究してきたのだろうか。まず本講義の前半では、何人かの社会学者の研究業績を紹介しながら、近代社会が抱える問題について講義する。つづく後半では、できるだけ身近な例を挙げて、ある事象が「社会問題化する」とはどういうことか、そして社会学が射程におく現代的課題にはどういったものがあるかを考えてみたい。 本講義のねらいは、異なった社会的・文化的背景をもつひとびとが、ともに生き、ともに暮らす社会において、なにが問題とみなされるのか、なにが必要とされているのかを社会学的視点から考え、「都市」「移民」「地域」に注目しつつ、現代のグローバル化・国際化のもとで日本社会が直面する課題とはなにか、そこからどのようなネットワークがあらたに生まれるかについて学ぶことである。	１．イントロダクション ２．社会的性格と「自由からの逃走」――E.フロム ３．同調様式の３類型――D.リースマン ４．都市化と移民――W.I.トマスと F.W.ズナニエツキ ５．同心円地帯説――E.バージェス ６．シカゴ学派と都市問題――R.パーク ７．社会問題と社会学社会問題化するということ ８．現代社会の諸問題――移民と日本社会（１） ９．現代社会の諸問題――移民と日本社会（２） １０．社会学の現在――メディアと地域文化（１） １１．社会学の現在――メディアと地域文化（２） １２．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
E.フロム『自由からの逃走』東京創元社 D.リースマン『孤独な群集』みすず書房 W.I.トーマス、F.ズナニエツキ『生活史の社会学』御茶の水書房	出席とレポート

	多文化共生研究Ⅴ（異文化間コミュニケーションa）	担当者	岡村　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
あなたにとってなにが異文化／自文化か？そう訊ねられたとき、私たちはどう答えるだろうか。異文化は「遠い国」「違うコトバ」だけではない。もちろんそれらが異文化として私たちの目に映ることはあるが、もっと身近なところにも異文化は見つけられる。場合によっては、遠い異文化より身近な異文化のほうに受け入れ難い何かを感じることもある。 本講義では、異文化間コミュニケーションの基礎的研究、およびその歴史的背景を概観し、現代社会の異文化関係について学ぶ。とくに重要なテーマは、さまざまな文化的差異を意識し、身近な異文化にも目を向けることである。そのうえで、異文化への／からの「まなざし」について、また多文化共生の理想と現実について考えていきたい。これらはきわめて慎重に扱わねばならない難しいテーマであるが、本講義をとおして異文化共生や異文化理解の糸口を探してほしい。	１．オリエンテーション ２．異-文化と自-文化 ——あなたにとって「異文化」とは？ ３．異文化間コミュニケーション研究の歴史 ４．コミュニケーションの構造 ——コンテクストとステレオタイプ ５．異文化へのまなざし（１）「日本」の表象 ６．異文化へのまなざし（２）自文化中心主義 ７．内なる異文化（１） ８．内なる異文化（２） ９．マルチカルチュラリズムと異文化共生（１） ——文化的差異の承認をめぐるジレンマ １０．マルチカルチュラリズムと異文化共生（２） ——多文化教育の視点 １１．相互行為分析と異文化研究 ——異-文化と自-文化のあいだ １２．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
岡村圭子『グローバル社会の異文化論』世界思想社	出席とレポート

	多文化共生研究Ⅵ（異文化間コミュニケーションb）	担当者	山本 英政

講義目的、講義概要	授業計画
異文化間のコミュニケーションとは、言い換えれば、「他者理解」のことである。本講義では、アメリカにおける異文化間の闘争とハワイの多民族共存のモデルケースを紹介する。 複数の民族を有する国の理想は異なる文化を認め合う社会の創造であろう。多民族社会アメリカでは、人種、民族間で生じる摩擦により、ときに多大な犠牲が払われてきた。 前半では、黒人による差別撤廃運動の過程を紹介する。公民権運動から半世紀が過ぎ、はたして人種間の対話は進展を見せたのだろうか。アメリカ白人たちのジレンマに目を向け、「他者」受容の困難さに理解を及ぼす。 後半は、多民族共存のひとつのモデルともいわれるハワイ社会を取り上げ、多文化が根を張るこの島社会の共生の核心部分を、日本人移民の同化過程を中心に解説する。	1　モザイク国家アメリカ 2　民族混合のジレンマ 3　奴隷制下の人種共存 4　黒人の地位向上運動 5　共存のパラダイム転換 6　公民権運動の共生理念 7　急進派ブラック・パワーによるコミュニケーションの断絶 8　ロス暴動に見る共存の現実 9　多民族混合社会ハワイ 10　ハワイの経験－多民族の取り込み－ 11　日系、アジア系の同化体験 12　異人種間共生の手がかり
	評価方法
『アメリカ黒人の歴史』本田創造　岩波新書 『キング牧師とマルコムX』上坂昇　講談社現代新書 『ハワイの日本人移民』山本英政　明石書店	学期末試験

	国際交流研究Ⅰ（国際関係論）	担当者	上村　幸治

講義目的、講義概要	授業計画
現代の国際政治について、日本や中国、台湾、朝鮮半島、米国、国連を中心に考察する。 中国など新たな大国の台頭により、国際秩序が大きく変化している。国際政治におけるパワーシフトといった現象が起き、東アジア共同体構想など新秩序形成に向けた取り組みも始まっている。 そうした変化の実態、背景、歴史的経緯、それが生み出すものについて検討する。 同時に、現在の日中関係、米中関係、日米中関係や、朝鮮半島の核問題、台湾独立問題などについても考察していく。 冷戦の崩壊、米国同時多発テロとその後に起きたイラク戦争、テロとの戦い、国連の果たす役割やその現状についても考察する。	１　国際関係論の考え方、授業計画の説明 ２　国際政治におけるパワーシフト ３　日中関係（日中国交正常化とその後の推移） ４　米中関係の特性（ステークホルダー論） ５　日米安保とアジア ６　新しいパワー（ソフトパワー論など） ７　朝鮮半島問題 ８　台湾問題 ９　ポスト冷戦 １０　米国同時多発テロとイスラム世界 １１　国連と人道介入 １２　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
上村幸治著『中国のいまがわかる本』（岩波ジュニア新書）	出席、レポート、試験など

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

	国際交流研究Ⅱ（国際協力論）	担当者	浦部　浩之

講義目的、講義概要	授業計画
「国際協力」を中心テーマとして講義を進めていきたい。 世界の各地では地域紛争が絶えない。また貧富の格差も一向になくならない。こうした諸問題を前に、我々はＰＫＯ（平和維持活動）やＯＤＡ（政府開発援助）を軸に平和構築や経済開発・貧困緩和に取り組んできた。この２つを有機的に結びつけること、すなわち紛争中やその前後の危険な状況下で効果的な開発援助を進めていくことも今日の重要課題のひとつである。 本講義ではこれらの国際協力の基本的枠組みや具体的事例、成果や限界について学び、それを通じて国際関係を見つめる視野を涵養することを目標とする。	Ⅰ．地域紛争と平和協力 1.　国連憲章と平和維持活動（ＰＫＯ） 2.　地域紛争の事例研究ａ：モザンビーク 3.　地域紛争の事例研究ｂ：エルサルバドル 4.　日本の国際平和協力法 Ⅱ．南北問題と開発協力 5.　開発戦略の変遷ａ：援助と貿易 6.　開発戦略の変遷ｂ：構造調整とガバナンス 7.　貧困と「人間開発」概念 8.　日本の政府開発援助（ＯＤＡ） Ⅲ．平和協力と開発協力の融合 9.　紛争終結後の社会荒廃 10.　人間の安全保障 11.　平和構築と復興支援の模索 12.　予防外交と予防開発
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献は授業で随時紹介する。	期末試験（これに出席状況を加味する）。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

	国際交流研究Ⅲ（国際機構論）	担当者	鈴木　淳一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 本講義の目的は、国際組織に対する法的視点を習得することを目的とする。 講義概要 本講義では、国際組織の国際法上の理論的諸問題を取り上げて検討する。 本講義を受講するにあたっては国際法の知識を有することを必ずしも前提とはしないが、主に国際法の視点から国際組織の分析を行うため、全学共通授業科目の国際法や法学部の国際法も受講することを奨励する。	1　イントロダクション 2　国際組織の概念と歴史 3　国際組織の設立と解散 4　国際組織の国際法上の地位 5　国際組織の国内法上の地位 6　国際組織と加盟国 7　国際組織間の連携・協力 8　国際組織と NGO（民間団体） 9　国際公務員 10　国際組織の意思決定 11　国際組織と財政・分担金・運営上の諸問題 12　まとめ
テキスト、参考文献	評価方法
横田洋三編著『新国際機構論　上』（国際書院）	主として学期末に実施する試験と出席により評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	評価方法

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

	国際交流研究Ⅳ（NGO 論）	担当者	未定

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期授業開始時までに掲示にて告知する。	秋学期授業開始時までに掲示にて告知する。

テキスト、参考文献	評価方法

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

	国際交流研究Ⅴ（南北問題）	担当者	浦部　浩之

講義目的、講義概要	授業計画
「南北問題」を中心テーマとして講義を進めていきたい。 地球上にいる人間の約 8 割は発展途上国に暮らしている。そして世界人口の約 5 分の 1（約 12 億人）は 1 日 1 ドル以下の生活を強いられている。我々は今この問題に正面から向き合わなければならない。たとえば、経済開発は重要だがそれを環境に負荷を与えずに行えるのか。市場経済と自由競争の社会で脆弱な貧困層にいかなる社会政策（教育・保健・福祉）を進めていけばよいのか。先進国による開発援助はいかにあるべきか。 本講義ではこうした現代世界における政治的・地理的課題について考え、それを通じて国際関係を見つめる視野を涵養することを目標とする。	Ⅰ．地球環境政治 1.　地球環境問題と南北対立 2.　貧困と環境破壊 3.　地球温暖化（気候変動枠組み条約） 4.　資源・エネルギーの枯渇 Ⅱ．南北問題の展開 5.　第三世界の独立と冷戦 6.　西側先進国の開発援助戦略 7.　石油危機と第三世界の結束 8.　第三世界内の格差拡大 Ⅲ．グローバル経済と開発援助 9.　経済（貿易・金融）のグローバル化 10.　経済の自由化と貧困の拡大 11.　開発援助の理念と枠組み 12.　ミレニアム開発目標

テキスト、参考文献	評価方法
参考文献は授業で随時紹介する。	期末試験（これに出席状況を加味する）。

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

	国際交流研究Ⅵ（情報とメディア）	担当者	上村　幸治

講義目的、講義概要	授業計画
現代の情報とメディアについて多角的に考える。取り上げる対象は、新聞、テレビ、出版（書籍）、インターネット、広告媒体など。 新聞社でジャーナリストとして働き、米国や中国で１４年間にわたって海外特派員として暮らした経験を踏まえ、実践的な情報論、メディア論を紹介したい。 社会的な事件、社会現象を取り上げながら、現代社会におけるメディアの役割とその問題点について考える。 ９・１１テロ、イラク戦争、選挙報道などといったトピック、グリコ・森永事件やベトナム戦争、ケネディ大統領暗殺、天安門事件などといった歴史的な事件にも言及する。 テレビ番組、ドラマや書籍を通してさまざまな社会現象が起きている。ドラマや映画、アニメといったソフトが海外に紹介され、国際交流に影響を与えている。 そうした現象が起きる背景や、ソフトパワーをめぐる問題、メディアの果たす新しい役割についても考える。 そのためにハリウッド映画や宮崎駿のアニメ、手塚治虫の作品、日本や韓国のテレビドラマなども材料として使う。	1　情報とメディアの関係 2　報道の自由と人権 3　事件報道の実態 4　戦争報道の歴史 5　スポーツとメディア 6　パブリシティ（報道と宣伝の関係） 7　映画などのソフトと社会の関係 8　テレビ番組と社会現象 9　アニメと国際社会 10　ソフトパワー論 11　インターネット時代 12　メディアリテラシー　まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
とくになし	出席、レポート、試験など

	宗教・文化・歴史研究Ⅰ（文化史入門）	担当者	古川　堅治

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 　グローバル化した現代社会にあって、私たちは自分の帰属意識や自己認識に揺らぎを感じ、改めて自分のアイデンティティーの確立の必要性を意識します。そのとき、自分が育ち、身に付けた文化が大きな役割を果たします。文化は、狭義にはさまざまな文化遺産や文化事象そのものを意味しますが、広義にはそれら文化遺産や文化事象を包括しつつ、歴史的に形成されてきた生活や思考の様式を意味し、そこに体現された社会や集団の個性や特質をも表わす概念です。本講義では、どちらも歴史的総体として考えねばならないとの問題関心から、個別文化事象も生活・思考様式もいかなる具体的な歴史社会と密接に結びついているかを古代ギリシア・ローマ世界を例にとりあげ、自己の帰属意識や自己認識にとっていかに文化理解が不可欠であるかを明らかにすることを目的にしています。 ＜講義概要＞ 　本講義では、古代地中海世界で体現された技術文化、造形芸術、文学・演劇などの個々の文化事象（狭義の文化）とそれらを生み出した社会との関係を示した後、宗教と祭祀、世界観、性愛、競争的人間類型などの生活や思考様式（広義の文化）がどのように歴史的に作り上げられていったかを見ます。	１　はじめに（講義の目的、概要、その他） ２　技術文化：（その１）動力とエネルギー源 　奴隷労働は生産的であったか？ ３　技術文化：（その２）水の供給・処理と農業・牧畜 　水道橋にかけるローマ人の執念 ４　運送手段：（その１）船と海上輸送 　古代の戦艦「三段櫂船」の脅威 ５　運送手段：（その２）陸上輸送 　古代の「一般道」と「高速道路」 ６　造形芸術：建築と彫刻 　アルカイック・スマイルの謎 ７　文学の世界：叙事詩と演劇 　ギリシア人は「神話」を信じていたか？ ８　宗教と祭祀：神々と人間 ９　性愛の諸相（男と女） 　同性愛と異性愛 １０　競技的（アゴン）人間類型 　理想的人間とは？ １１　クリエンテーラ・パトロネジ関係 　「シンポジウム」と親分・子分関係 １２　まとめ（総括と展望）
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使わず、プリントを配布します。また、初回の授業時に「参考文献一覧表」を配布します。	学期末のレポートと数回の小レポート・報告の成績に、出席点を加味して総合的に評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

	宗教・文化・歴史研究Ⅱ（東洋思想史 a）	担当者	松丸　壽雄

講義目的、講義概要	授業計画
二十一世紀の現代に生きている我々は、さまざまな文化に触れながら、我々の日々の振る舞いの仕方を決定している。だが、それぞれの文化圏、それぞれの国、それぞれの地域に特有の、身についた考え方に、知らぬ間に影響を受けながら、自らの行動決定をしている場合が多い。このように、自らの行動決定の基盤となる、固有の文化圏、固有の地域の伝統的考え方と現在の考え方を反省的に捉えて顕在化し、行動決定に際して、自分が育まれてきた文化圏の思想を捉え、実地に使える行動決定の原理として、古代から現代に至る東洋思想を自覚化する。その範囲は主として日本、中国、インドにおける諸思想と諸宗教を扱うことになる。なお、東洋に中近東までを含めるのか否かはきわめて問題となるところではある。しかし東洋思想史 a では、古代インド、中国思想を中心に、日本における神道ならびに仏教思想をも含めながら、おおよその区分として十三世紀までを視野に入れることになる。	１．（インド）アーリア人とヴェーダの宗教 ２．（インド）バラモン教とウパニシャッド哲学の思想 ３．（インド）ジャイナ教とウパニシャッド哲学と原始仏教の思想 ４．（インド）仏教とヒンドゥー教の思想 ５．（中国）孔子と論語の思想と墨子の兼愛 ６．（中国）老荘思想と荀子、韓非子 ７．（中国）儒教の革新–宋学の勃興 ８．（中国）宋学の大成–朱子とその周辺 ９．（日本）古事記、日本書紀と神道 １０．（日本）仏教の伝来と鎌倉仏教思想 １１．（日本）道元と親鸞 １２．（日本）宣長と仁斉と徂徠
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示	授業への貢献度とレポートによる評価

	宗教・文化・歴史研究Ⅲ（東洋思想史 b）	担当者	松丸　壽雄

講義目的、講義概要	授業計画
二十一世紀の現代に生きている我々は、さまざまな文化に触れながら、我々の日々の振る舞いの仕方を決定している。だが、それぞれの文化圏、それぞれの国、それぞれの地域に特有の、身についた考え方に、知らぬ間に影響を受けながら、自らの行動決定をしている場合が多い。このように、自らの行動決定の基盤となる、固有の文化圏、固有の地域の伝統的考え方と現在の考え方を反省的に捉えて顕在化し、行動決定に際して、自分が育まれてきた文化圏の思想を捉え、実地に使える行動決定の原理として、古代から現代に至る東洋思想を自覚化する。その範囲は主として日本、中国、インドにおける諸思想と諸宗教を扱うことになる。なお、東洋に中近東までを含めるのか否かはきわめて問題となるところではある。しかし東洋思想史 b では、インド、中国、さらには両者に影響を与えた、回教の伝来に伴う思想的変化をも考慮に入れた近現代の思想、そして日本の近現代思想を扱う。	１．（インド）回教の侵入と伝統的インド思想の変化、とシーク教 ２．（インド）近代西洋とインド文化 ３．（インド）ガンジーとタゴール ４．（中国）明学と清学 ５．（中国）資本主義と共産主義 ６．（中国）現代と儒教思想、 ７．（日本）江戸期の思想 ８．（日本）明治維新期の思想 ９．（日本）福沢諭吉、西周、中江兆民 １０．（日本）京都学派の哲学 １１．（日本）現代の思想状況と西欧との関係 １２．東洋思想史の現代における意味
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示	授業への貢献度とレポートによる評価

	宗教・文化・歴史研究Ⅳ（文明史研究 a）	担当者	古川　堅治

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ ２１世紀の人間社会は一体どのような道を歩もうとしているのか？また、その中で国家という枠組みはどうなっていくのか？本講座は、そのような問題意識のもとに、副題として「ヨーロッパの歴史」と銘打ち、分裂と統合の視点からその歴史を通観し、今日のヨーロッパ連合（ＥＵ）がどのような思想的系譜から生み出され、かつまた、いかなる発展の可能性を秘めているのかを考えることを主目的としています。 ＜講義概要＞ 講義は概説的に進めていきますが、関連するテーマをビデオや映画、ＤＶＤなどもできるだけ使って理解を深めるのに役立てたいと思います。授業では、細かな年代や事項を暗記してもらおうというのではなく、各テーマごとに問題を提起し、それについて考えてもらうことを主眼においているので、積極的かつ活発な質問、疑問、意見が出ることが期待されています。なお、春学期に少なくとも１回の討論会を催す予定にしています。	１．はじめに（歴史を学ぶ意味、今なぜヨーロッパか？） ２．ヨーロッパとは何か？（「ヨーロッパ」の概念規定） ３．古代地中海世界とヨーロッパ（その１：古典文明とヨーロッパ人の意識） ４．古代地中海世界とヨーロッパ（その２：民主主義理念の系譜） ５．古代地中海世界とヨーロッパ（その３：ヨーロッパにおける古代ローマの遺産） ６．統一ヨーロッパ構想の起点（「ヨーロッパ合衆国」の原型とフランク王国） ７．最初のヨーロッパ統合（中世ヨーロッパをとらえる視点） ８．討論会（テーマや開催の仕方は授業中に指示する） ９．第二のヨーロッパ統合（その１：近代以前のヨーロッパ統合の思想的系譜） １０．第二のヨーロッパ統合（その２：近代以後のヨーロッパ統合の思想的系譜） １１．ヨーロッパ統合の歴史的意義（共存の新しい枠組？） １２．まとめ（ヨーロッパ統合と日本）
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使用せず、プリントを配布します。なお、参考文献は初回の授業で「参考文献一覧表」を配布する予定です。	期末のレポート、数回の小レポート、討論会への参加度、出席点を加味して総合的に評価します。

	宗教・文化・歴史研究Ⅴ（文明史研究 b）	担当者	古川　堅治

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ ２１世紀の人間社会はどのような道を歩もうとしているのか？その中で国家という枠組みはどうなっていくのか？本講座はそのような問題関心から、副題として「バルカン情勢の現在」と銘打ち、ヨーロッパの不安定要因の一つであったバルカン地域をとりあげ、その地域における諸国家、諸民族、諸地域の協力のあり方を考えることによって、新しい共存の可能性をさぐることを目的としています。 ＜講義概要＞ 講義は概説的に進めていきますが、関連するテーマのビデオや映画、ＤＶＤなどの映像史料もできるだけ使って理解を深めるのに役立てたいと思います。授業では、細かな年代や事項を暗記してもらおうというのではなく、各テーマごとにに問題を提起し、それについて考えてもらうことを主眼においているので、積極的かつ活発な質問、疑問、意見が出ることが期待されています。なお、秋学期に少なくとも１回の討論会を催す予定にしています。	１．はじめに（地域研究の意義と方法） ２．オスマン帝国の支配と民族問題（その１：バルカン前史とオスマン帝国の進出） ３．オスマン帝国の支配と民族問題（その２：フランス革命とバルカン地域の民族意識の形成） ４．バルカン地域における民族運動の展開（その１：民族的統合の諸契機） ５．バルカン地域における民族運動の展開（その２：バルカン諸民族の独立と対立） ６．バルカン地域の民族問題の諸類型（国内民族対立、分割の再統合、少数民族） ７．討論会（テーマや開催の方法は授業中に指示する） ８．バルカン地域の諸問題の現状（その１：マケドニア共和国をめぐる問題） ９．バルカン地域の諸問題の現状（その２：コソボ問題） １０．バルカン地域の諸問題の現状（その３：キプロスの再統合とトルコのＥＵ加盟問題） １１．バルカン地域の将来（連邦構想と地域協力の動き） １２．まとめ（現代世界の課題：地域協力と地域統合）
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使用せず、プリントを配布します。なお、参考文献は初回の授業で「参考文献一覧表」を配布する予定です。	期末のレポート、数回の小レポート、討論会への参加度、出席点を加味して総合的に評価します。

	宗教・文化・歴史研究Ⅵ（倫理学 a）	担当者	松丸　壽雄

講義目的、講義概要	授業計画
中学、高校の社会科担当の教師が身につけなければいけない倫理学の基礎的知識を得るために、東洋及び西洋の古代から近世に至る倫理学の学説を広く概観する。しかしながら、単に知識を身につけるだけでなく、倫理・道徳とは何か、および、中学校、高等学校で実際に生徒と接したときに、生徒から突きつけられる道徳あるいは倫理に関する問題や質問に、どのように誠意を持って、一人の人間として答えるのか、答えられるのかを実地に習得することを目標とする。この倫理思想の実地の習得はディスカッションを学期内に二度ほどすることによって遂行する。 宗教・文化・歴史研究Ⅵ（倫理学 a）では、東洋では古代の中国、西洋では古代ギリシャの夫々に思想家における倫理思想を扱うことから始める。中世の倫理思想および仏教、キリスト教、およびイスラム等の世界三大宗教の倫理思想、およびカント・ヘーゲル等の近世までの倫理学説を取り上げる。また、大まかな時代区分に応じた区切りのところでディスカッションをする。そのディスカッションを通して、実地に自分で考え、それを他の参加者と討論しあいながら、自分の立場および態度を、自分から気付き、自分から掴み取るようにする。そして、その自分の立場および見解を論理的に表現することのできるようにできる練習も同時にする。	１．　代中国の倫理思想（老子、荘子、孔子、孟子） ２．古代中国の倫理思想（告子、墨子、荀子、韓非子） ３．古代ギリシャの倫理思想（ソクラテス、プラトン、アリストテレス） ４．古代ギリシャ、ローマの倫理思想（エピキュロス、ストア、キケロ、セネカ、エピクテトス、マルクス・アウレリウス） ５．中世の倫理思想（アウグスチヌス、アベラール、トマス・アクィナス、オッカム、ドンス・スコトゥス） ６．ディスカッション（人間とは何か） ７．宗教と倫理（仏教倫理と儒教倫理） ８．宗教と倫理（キリスト教倫理とイスラム倫理） ９．近世の倫理思想（デカルト、ホッブス、スピノザ、ライプニッツ、ベンサム、グリーン） １０．近世の倫理思想（ヒュームとカント） １１．近世の倫理思想（カントとヘーゲルとキェルケゴール） １２．ディスカッション（人間として何をすべきか、幸福と自然）
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示	授業への貢献度と学期末の試験

	宗教・文化・歴史研究Ⅶ（倫理学 b）	担当者	松丸　壽雄

講義目的、講義概要	授業計画
中学、高校の社会科担当の教師が身につけなければいけない倫理学の基礎的知識を得るために、近世から現代に至る倫理学の学説を広く概観する。同時に現代の自然科学の発展と医学の進展がもらした、現代に特有の自然科学者の倫理問題、技術開発に伴う倫理、医療およびその基礎そにある生命倫理につての考察も習得する。しかしながら、単に知識を身につけるだけでなく、倫理・道徳とは何か、および、中学校、高等学校で実際に生徒と接したときに、生徒から突きつけられる道徳あるいは倫理に関する問題や質問に、どのように誠意を持って、一人の人間として答えるのか、答えられるのかを実地に習得することを目標とする。この倫理思想の実地の習得はディスカッションを学期内に二度ほどすることによって遂行する。 東洋では日本の近現代の倫理思想および近代生活への浸透に伴う進化論の影響とそれに基づく倫理思想、および現代にまで続くニヒリズム思想までの倫理学説を取り上げる。また、大まかな時代区分に応じた区切りのところでディスカッションをする。そのディスカッションを通して、実地に自分で考え、それを他の参加者と討論しあいながら、自分の立場および態度を、自分から気付き、自分から掴み取るようにする。	１．日本の倫理思想（儒学と明治思想と和辻哲郎） ２．進化論と倫理思想（ダーウィン、スペンサー、ミル、ブラドレー、ロイス） ３．ニーチェとニヒリズム ４．私と汝（ブーバーと西田幾多郎） ５．社会主義倫理と資本主義倫理 ６．ディスカッション（ひとは何故ひとを殺してはいけないのか） ７．自然科学と倫理 ８．技術と倫理 ９．医療と倫理 １０．環境と倫理 １１．自然とは、地球とは １２．ディスカッション（いのち）
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示	授業への貢献度と学期末の試験

	日本語教育研究Ⅰ（日本語教育概説）	担当者	中西　家栄子

講義目的、講義概要	授業計画
将来、日本語教師を目指す人への授業と限定するのではなく、外国語としての日本語・日本語教育の環境と現状、語学教育全般、等にわたって広く興味を持っている学生のためのものである。日本語教師養成課程を履修する人にとっては、教授法Ⅰとある程度の重なりがあるが、具体的な教育・指導について学ぶための前段階と位置づけて授業に臨んでほしい。 １．日本語教育と国語教育の違いを知る。 ２．世界の中における日本語教育の現状を知る。 ３．日本語を外国語として概観する。 ４．日本語の基本的な仕組みを知る。 ５．日本語を外国人に教える、とはどういうことかを知る。 授業では様々な授業形態のビデオを見ることによって、実際に日本語教育のイメージをつかんでいく。	1）オリエンテーション　ー　日本語教育の現場を見る　（ビデオ） 2）日本語教育とは？　日本語教育と国語教育の違について 3）世界における日本語教育 4）日本語教育の歴史と現状 5）第一言語習得　対　第二言語習得 6）外国語教授法－直接法 オーディオリンガル コミュニカティブ･アプローチ 7）コースデザインとシラバス 8）シラバス 9）日本語能力の認定　ー　日本語能力をどのように捉えるのか 10）日本語のしくみとその指導のポイント 音声 文字・表記 日本語の文法 語彙・意味 11）日本語教育の実際　ー　教室活動 上記のクラス数配分は、その時点での進捗状況に合わせる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：　①プリント 参考文献：　②『ここからはじまる日本語教育』姫野昌子他、ひつじ書房	期末定期試験

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

	日本語教育研究Ⅱ（日本事情とコミュニケーション教育）	担当者	小山　慎治

講義目的、講義概要	授業計画
日本文化や時事問題について調べ発表する活動を通し、日本社会における諸問題に関する常識的な知識を獲得することが主たる目的である。授業を通して、幅広く問題意識を持ち、積極的に知識を獲得しようとする態度を身に付けることが期待される。特に、日本語教育に興味を持つ学生の受講を歓迎する。 　授業ではまずコミュニケーション論の枠組みおよび効果的なプレゼンテーションの手法を提示した上で、日本社会に関するテーマの発表を課す。受講者による発表と発表内容に関する質疑応答、発表方法に関するコメントを軸に授業を進める。日本社会に関する問題意識を持つことと同時に、知識を他者と共有するプロセスへの関心も高められるよう配慮していきたい。 　なお、受講者が多数の場合は、発表の形式や回数等変更することもある。	1　ガイダンス・発表者および発表テーマ調整 2　コミュニケーションの概念と構成要素 3　情報提供を目的とするプレゼンテーションの手法 4　発表（1） 5　発表（2） 6　発表（3） 7　発表（4） 8　発表（5） 9　発表（6） 10　発表（7） 11　発表（8） 12　まとめ 発表のテーマはガイダンスにて調整する予定だが、参考までに昨年度扱ったテーマを以下に示す： ・少子高齢化 ・ニート・フリーター ・首相の靖国神社参拝 ・日本の領土問題 ・ゆとり教育 ・敬語の乱れ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献： 文藝春秋（編）『日本の論点 2007』文藝春秋 2006 年 水谷修他（編）『日本事情ハンドブック』大修館 1995 年	出席、クラスへの貢献、クラスでの課題、および定期試験による総合評価

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

	教育科学研究Ⅰ（教育の原理）	担当者	川村　肇

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】 教育の本質を理解するために、自らの教育観を相対化しつつ、さまざまな基本的概念を学び、教育に対する考え方の基礎を養う。 【概要】 １．子どもの権利条約や新旧教育基本法等を素材にして、人権と子どもの権利、能力の問題、義務教育等の、教育において基本的な概念や考え方を学ぶ。 ２．教育と学習との関係を、ビデオ、教育の時事問題や教育実践などを教材として、様々な角度から考えていく。 【要望等】 ・ほぼ毎回、感想文を書くこと、資料を読むことを求め、学生間の討論を予定している。また、ビデオ等の教材提示があるので、遅刻や欠席は避けること。 ・法的および歴史的理解には、特に力を入れてほしい。 ・提示された参考文献（ブックレット）を読み進めておくこと。	1　講義の進め方の説明／「学力論争」をどう考えるか 2　総合的な学習の時間と戦後教育の歴史（その１） 3　総合的な学習の時間と戦後教育の歴史（その２） 4　学力問題の国際比較（学力調査について）／小テスト実施予定 5　学力問題の国際比較（ドイツの事例） 6　学力問題の国際比較（フィンランドの事例） 7　系統学習と問題解決学習について 8　能力を考える（教育基本法第３条） 9　教育における競争と自由の問題を考える 10　子どもの権利条約の精神（保護と参加／３つのＰ） 11　子どもに固有の権利と人権との関係 12　子どもとはどういう存在か（系統発達と子どもの発見）
テキスト、参考文献	**評価方法**
『ポケット版　子どもの権利ノート』(300 円）／参考文献は適宜紹介する。	期末試験に、感想文や小レポートの提出、小テストの点数等を加味する。

	教育科学研究Ⅰ（教育の原理）	担当者	川村　肇

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に同じ。	春学期に同じ。
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期に同じ。	春学期に同じ。

	教育科学研究Ⅰ（教育の原理）	担当者	小島　優生

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　本講義は、教職課程履修者が最初に受講する講義として設定されている。したがって、教職課程の基礎理論として歴史・思想や学校経営・教育行政など現在の教育課題と結びつけながら、ひろく解説し、導入とすることを目的とする。 講義概要 　右のような計画に基づき、VTR や新聞記事等も多用しながら講義を行い、「それについてどう考えるか」を大切にしたい。授業中に指名し、意見を述べてもらうことも考えている。	１．　授業に関するガイダンス ２．　獨協大学で教員免許が取れるわけ ３．　教育改革の動向～教育再生会議答申を中心に～ ４．　教育とはなにか ５．　子どもの成長発達と家庭教育 ６．　現代の学校と教育病理 ７．　子どもを生かす教育内容 ８．　人間的成長を援助する生徒指導 ９．10．子どもの権利保障と教育制度 11.　個性を生かす学校経営 12.　生涯学習と私たちの学び
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：山崎清男編著（2004）『教育学を学ぶ』川島書店 その他は授業中に指示する	連休明けの読書レポート、及び学期末のテストにより、評価する。意見発表など授業への貢献も加味したい。

	教育科学研究Ⅰ（教育の原理）	担当者	小島　優生

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同様	春学期と同様
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期と同様	春学期と同様

	教育科学研究Ⅱ（教育の歴史 1）	担当者	川村　肇

講義目的、講義概要	授業計画
教育を歴史的に振り返ることで、今日の教育や社会を相対化する視点を得ることを目的とします。 本講義では日本の前近代の教育史を担当しますが（２では近代以降になります)、具体的には江戸時代とそれを前後する時期の、教育の実際の姿（教育諸機関、子育て習俗等）および教育思想を扱います。 江戸時代には、現代とは全く異なった知的枠組みで思想的営為が行なわれていたため、初学者にも分かりやすいよう、画像を含めた資料を用いながら丁寧に講義するつもりです。	1　開講の辞／前近代における「教育」という営み 2　子育ての習俗 3　江戸時代の二つの知 4　江戸時代の教育諸機関とその研究（1） 5　江戸時代の教育諸機関とその研究（2） 6　日本文化と日本の思想の特質 7　キリスト教伝来と日本人の対応 8　朱子学と日本の儒学 9　江戸時代の思想の流れ 10　貝原益軒の儒学と教育思想 11　民衆の儒学と民衆の教育 12　「学制」による知の統合
テキスト、参考文献	**評価方法**
配付するプリント類。参考文献は授業中に紹介します。	最終レポートおよび、適宜課すレポート、感想文などを勘案します。

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

	教育科学研究Ⅳ（教職論）	担当者	川村　肇

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】 教職課程で学ぶ諸科目の入門として、教職の意義と教職に就く心構えを学び、さまざまな角度から教育に対する見方を鍛えることを目標とする。 【概要】 １.「学級崩壊」「いじめ」「体罰」など、現代教育の抱えている諸問題を取り上げて、実態をビデオ等により確認し、参加者で討議する。 　こうした問題への教師の取り組みを考えることを通し、教職の意義及び教員の役割及び教員の職務内容を学ぶ。 ２．進路選択に資する各種の機会の提供を行なう。 ３．諸問題が教育や社会に投げかけている問題を認識し、教職の役割を明確にすることで、今後の学習につなげていく道筋を理解していく。特に体罰については、その問題点をきちんと理解することを求める。 【要望】 ・ビデオを見たり、グループ討議を取り入れるので、遅刻や欠席は避けること。 ・右の講義計画は、討論の進み具合等によって、変更することがありうる。	１　講義の進め方の説明／本学で教職免許状が取得できる理由/教職の意義と役割 ２　学級崩壊を考える（実態把握）／宿題：学級崩壊への対処について ３　学級崩壊を考える（グループ討論） ４　学級崩壊を考える（グループ討論の発表）／宿題：少年法改正について ５　ＡＤＨＤを考える（実態把握）／宿題：ＡＤＨＤから学ぶこと・体罰について（その１） ６　体罰を考える（グループ討論） ７　体罰を考える（体罰に関する理論的問題） ８　体罰を考える（実態把握）／宿題：体罰について（その２） ９　いじめを考える（実態把握）／宿題：いじめへの対処について 10　いじめを考える（グループ討論） 11　教員の職務内容（研修、服務、身分保障）について 12　様々な進路選択の問題を考える
テキスト、参考文献	**評価方法**
配布プリント類による。	期末レポートと数回の小レポートを総合評価する。

	教育科学研究Ⅳ（教職論）	担当者	川村　肇

講義目的、講義概要	授業計画
（半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ）	
テキスト、参考文献	**評価方法**

	教育科学研究Ⅳ（教職論）	担当者	吉田　武大

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】・【講義概要】 本講義では、教職課程の入門科目として、教員の仕事や役割、そしてどうすれば教員になることができるかを理解するとともに、人間形成を志向する学校教育の実践的な資質能力、力量形成を模索させることを目的としている。	1.　イントロダクション 2.　教員とは何か 3.　学校教育制度の形成 4.　日本における教員制度の歴史 5.　教員の特質と現代的課題(1) 6.　教員の特質と現代的課題(2) 7.　教員の業務と服務(1) 8.　教員の業務と服務(2) 9.　教育をめぐる諸問題にどう取り組むか 10.　生徒指導～いじめと不登校 11.　生徒指導～学級崩壊など 12.　教育実習と介護等体験
テキスト、参考文献	**評価方法**
配布プリント類による	期末の試験による

	教育科学研究Ⅳ（教職論）	担当者	吉田　武大

講義目的、講義概要	授業計画
（半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ）	
テキスト、参考文献	**評価方法**
配布プリント類による	試験による

	教育科学研究Ⅴ（発達と学習の心理学）	担当者	田口　雅徳

講義目的、講義概要	授業計画
今日，日本の教育環境は大きな転換点にさしかかっている。こうした状況の中で，教育心理学においてこれまで得られてきた知見が，学校教育における子どもの理解や指導にどのように役立ちうるのかを受講者と共に考えていきたい。本講義の授業概要は以下のとおりである。 １．教職心理学とはなにか？ ２．教育評価と学力問題 ３．学習の動機付け ４．発達障害の理解と教育	本講義の授業計画は以下のとおりである。 １．教育心理学の領域と歴史的展開 ２．教育測定と教育評価 ３．教育評価の方法 ４．教育評価と学力問題 ５．学習の原理 ６．学習における動機付け ７．学習意欲と原因帰属 ８．学習意欲と目標理論 ９．学習意欲と教師の役割 10．発達期と発達課題 11．発達と障害 12．障害の理解と対応
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使用しない。必要な資料は授業にて配布する。	出席状況と学期末の試験により総合的に評価する。

	教育科学研究Ⅴ（発達と学習の心理学）	担当者	田口　雅徳

講義目的、講義概要	授業計画
（半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ）	
テキスト、参考文献	**評価方法**

	教育科学研究Ｖ（発達と学習の心理学）	担当者	横田　雅弘

講義目的、講義概要	授業計画
この授業の第一の狙いは、教師としての自分自身を知るということである。特に初等・中等教育の教師は子供たちと全人格的に交わるのであり、そのときに自分が教師として、あるいは人間としてどのような特性をもっているのか、どのような教師になりたいと思っているのか、そのために自分のどこを活かし、どこをより伸ばしていかねばならないかを知っていることが大切である。授業はこの自分理解の手助けを行う。第二の狙いは、**実際に教職についたときに役立つ心理学の実践的知識を身につけることである。ただし、教職で必要となる心理学の知識を半年間で網羅することは不可能である。むしろ、単に知識を暗記するのではなく、それらの知識を通して教職という仕事についての自分なりの考え方を確立してほしい。**授業は、教職に関する心理学の講義の他に、心理テストとそれを理解するための交流分析の理論講義とディスカッションが中心となる。	1 オリエンテーション 2 心理テスト TPI の記入 3 発達と教育（1）：発達観と教育、認知的発達 4 発達と教育（2）：道徳性の発達、知能の発達と創造性 ＜自分の発達観と教育観を知る＞ 5 人間関係と社会性の発達: 親・友達・教師と子供、青年期のアイデンティティ　＜自分のアイデンティティ＞ 6 学習理論、動機づけ理論、創造性: 理論紹介 ＜自分の動機づけの傾向について考える＞ 7 交流分析の講義と自己分析（1） 8 交流分析の講義と自己分析（2） 9 ディスカッション＝教師としての自分の強みと弱みの自己分析、教師の自己表現について 10 学校不適応と精神衛生：不適応に関係する心理的メカニズム 11 カウンセリングの基礎知識（1） 12 カウンセリングの基礎知識（2） 13 小テスト実施およびレポート（A4 ワープロ２枚）
テキスト、参考文献	**評価方法**
パワーポイントの資料は全てプリントとして配布する。 その他の参考文献は適宜授業中に紹介する。	小テストとレポートを中心に出席を加味して総合的に評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

	教育科学研究Ⅴ（発達と学習の心理学）	担当者	森川　正大

講義目的、講義概要	授業計画
人間は、「こども」から「おとな」へと変化する存在であり、その過程は、家庭、学校、および社会による教育機能に支えられる。 教育は、人間の「発達」および「学習」の過程にかかわるはたらきであるが、この科目は、学校教育の心理学的基礎として、青年期までの心身の発達と学習の過程について学び、かつ、教師の役割について考察する。また、学習障害、発達障害、その他、障害のある「こども」の心身の発達および学習の過程についてもとり上げる。 講義のほか、自己理解、他者理解を深めるための簡単なワークを取り入れ、生徒とのリレーション、教師のあり方についても考える機会としたい。 内容の柱は、以下のとおり。 ①　教育心理学の課題 ②　発達過程の諸原理 ③　学習過程の諸原理 ④　生徒の個人差と教育 ⑤　アイデンティティの形成 ⑥　生徒理解のポイントとかかわり方 ⑦　教師の役割	1　教育心理学の課題 2　人間の成長と発達の原理 3　発達段階と発達課題 4　青年期までの発達 5　社会性・道徳性の発達 6　学習の原理 7　内発的動機づけと学習意欲 8　個人差と教育 9　障害のある生徒と教育の課題 10　アイデンティティの形成 11　教育測定と評価 12　教師の自己点検／まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
テキストは用いない。プリントによる。参考文献は必要に応じて示す。	出席状況、授業中に課す提出物（「ワークシート」、「ふりかえり」用紙など）、期末レポートを総合して評価する。試験は行わない。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

	教育科学研究VI（こころの世界）	担当者	田口　雅徳

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では，まず，現代心理学の成立過程を概観することで，心理学の基本的な知見について説明していく。その後，性格の形成，ストレス，生きがいと健康などのテーマについて，さまざまなデータを示しながら説明していく。 本講義を通して，心理学がいかにして人の心を科学的にとらえようとしてきたかを理解してもらいたい。また，心理学の基本的知識を身につけ，社会の諸問題や人間の行動を心理学的視点で捉える力を養ってほしい。	以下のような計画で講義をおこなっていく予定である。 １．心理学のあゆみ①：哲学的心理学・心理学の誕生 ２．心理学のあゆみ②：ゲシュタルト心理学 ３．心理学のあゆみ③：行動主義の心理学 ４．心理学のあゆみ④：精神分析理論 ５．性格とは？：自己の性格理解 ６．性格理論 ７．性格の形成 ８．ストレス①：ストレスと性格 ９．ストレス②：ストレス・コーピング 10．ストレス③：ストレスの生理心理学 11．現代社会とこころの病 12．生きがいと精神的健康

テキスト、参考文献	評価方法
教科書は使用しない。資料を配付して，講義をおこなう。	授業への出席状況と，授業での小レポート，学期末試験により総合的に評価する。

	自然・環境研究Ⅰ（科学史 a）	担当者	東　孝博

講義目的、講義概要	授業計画
１７世紀における力学と物理法則概念の形成を中心とした世界像の変革を踏まえ、２０世紀における科学、とくに物理学の革命といえる相対論と量子論の成立の過程を中心に、科学とは何かという問題を歴史的視点から考察する。また、この授業を受けることによって、受講生が一般市民に対し、科学を学ぶことの意義や楽しさを伝えられるようになることも目指したい。 「自然・環境研究Ⅰ（科学史 a）」では相対論を中心に扱い、現在の人類が持っている最新の時間･空間概念および宇宙像が如何に成立してきたかをみていく。	1. はじめに 2. 近代以前の時間空間概念 3. 近代における時間空間概念の成立Ⅰ－ニュートン力学 4. 近代における時間空間概念の成立Ⅱ－天体の運動 5. 近代における時間空間概念の成立Ⅲ－ニュートン的宇宙観 6. 現代における時間空間概念の成立Ⅰ－光速度 7. 現代における時間空間概念の成立Ⅱ－時間概念の相対性 8. 現代における時間空間概念の成立Ⅲ－空間概念の相対性 9. 現代における時間空間概念の成立Ⅳ－重力の幾何学化 10. 現代における時間空間概念の成立Ⅴ－一般相対論的宇宙論 11. 現代における時間空間概念の成立Ⅵ－一般相対論における時間 12. 最新の時間空間概念
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはとくになし、参考文献は適宜紹介する。	日常の授業への参加態度、毎回の「授業レポート」で評価をつける予定。

	自然・環境研究Ⅱ（科学史 b）	担当者	東　孝博

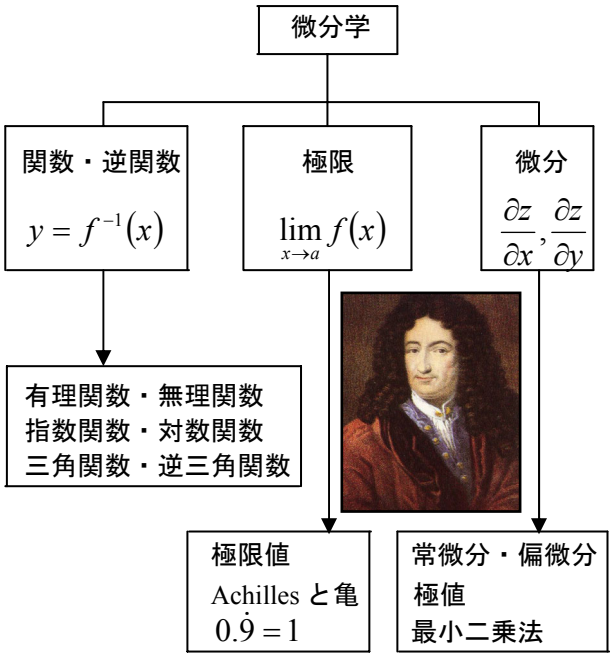
講義目的、講義概要	授業計画
１７世紀における力学と物理法則概念の形成を中心とした世界像の変革を踏まえ、２０世紀における科学、とくに物理学の革命といえる相対論と量子論の成立の過程を中心に、科学とは何かという問題を歴史的視点から考察する。また、この授業を受けることによって、受講生が一般市民に対し、科学を学ぶことの意義や楽しさを伝えられるようになることも目指したい。 「自然・環境研究Ⅱ（科学史 b）」では量子論を中心に扱い、現在の人類が持っている最新の物質の究極像が如何に成立してきたかをみていく。	1. はじめに 2. 近代以前の物質観 3. 近代における物質観の成立Ⅰ－近代的原子論 4. 近代における物質観の成立Ⅱ－光の粒子説・波動説 5. 近代における物質観の成立Ⅲ－電磁気学の成立 6. 現代における物質観の成立Ⅰ－前期量子論 7. 現代における物質観の成立Ⅱ－不確定性関係 8. 現代における物質観の成立Ⅲ－素粒子の世界 9. 現代における物質観の成立Ⅳ－基本相互作用 10. 現代における物質観の成立Ⅴ－統一理論 11. 現代における物質観の成立Ⅵ－宇宙の進化 12. 最新の物質観
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはとくになし、参考文献は適宜紹介する。	日常の授業への参加態度、毎回の「授業レポート」で評価をつける予定。

	自然・環境研究Ⅲ（数学 a）	担当者	福井 尚生

講義目的

- 数学は、現象を客観的に解析する際に威力を発揮します。『数学 a』では、現象の変化を解析する際に登場する「微分学」を学びます。微分学は現象の変化のうち、特に山頂・丘・窪み・谷底等を扱うことを得意とします。身の回りの複雑な環境を反映して、多変数微分も勉強します。
- 身近な現象を関数に対応させて解析し、この関数の変化の様子から、対応する身近な現象の知られざる部分の変化の様子を逆に探ります。
- 講義・演習を通して、微分学の知識を**実際の現象解析に使える**ようになればと思います。
- 主体的に必死に勉強して得た知識をもとに、出来るだけ多くの問題を解き、微分学を身の回りの現象に実際に応用する努力をして下さい。

講義概要



(テキスト)・(参考文献)

- (テキスト/ 配布するプリント)・(参考文献/『数学読本』松坂 和夫 著・岩波書店)

評価方法

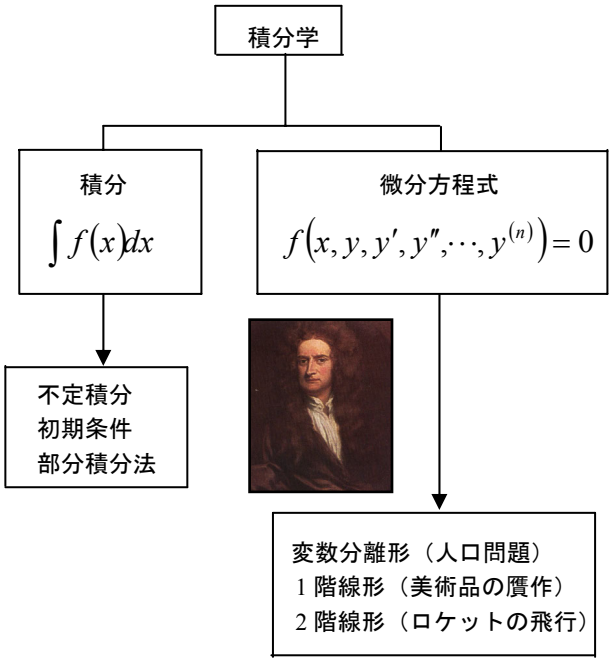
- 主たる評価資料は、授業時間中に提出してもらう**評価用紙（演習・宿題・Quiz）の中身**です。

	自然・環境研究Ⅳ（数学 b）	担当者	福井 尚生

講義目的

- 『数学 b』は上記『数学 a』の知識を前提に、現象の奥底に潜む法則のモデル作りに威力を発揮する「積分学（**積分・微分方程式**）」を学びます。
- 応用として、身近な現象の数学モデルに登場する変数の発展を辿り、着目する現象の具体的な行動・未来予測等に挑戦します。数学モデルを作る際、現象のどの点に着眼するか一苦労です。
- 講義・演習を通して、積分学（積分・微分方程式）の知識を**実際の現象解析に使える**ようになれば Second opinion の構築に役立つと思います。
- 主体的に必死に勉強して得た知識をもとに、出来るだけ多くの問題を解き、積分学（積分・微分方程式）を身の回りの現象に実際に応用する努力をして下さい。

講義概要



（テキスト）・（参考文献）

- （テキスト/ 配布プリント）・（参考文献/『微分方程式で数学モデルを作ろう』垣田 高夫、大町 比佐栄 訳・日本評論社）

評価方法

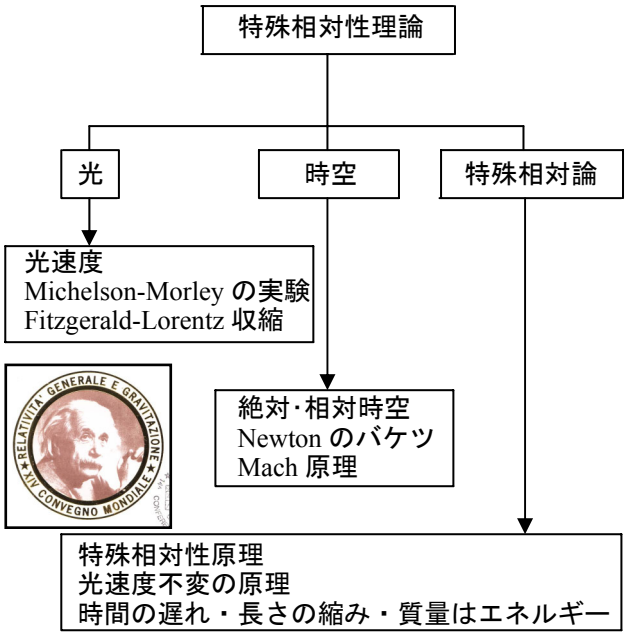
- 主たる評価資料は、授業時間中に提出してもらう**評価用紙（演習・宿題・Quiz）の中身**です。

	自然・環境研究Ⅴ（宇宙論 a）	担当者	福井 尚生

講義目的

- ✡『宇宙論 a』では Einstein の「特殊相対性理論」を学びます。自らの座標系をしっかりさせ、“特殊”に付けられた条件に留意する必要があります。
- ✡ Einstein は当時、研究者の間で議論されていた**光**の伝播に関する問題に強い関心を持ちました。また Einstein が、**時**間・**空**間に対する考え方をそれまでの絶対から相対に変えたことに依り、物理的世界観は本質的な変質を遂げました。
- ✡ 主体的に必死に勉強して得た知識をもとに、自らの頭でユニークな先を考え、必要とあらば思い切った**発想の転換**、Paradigm Shift を試みることも時には大切なことだと思います。
- ✡ 視聴覚教材を出来るだけ利用します。
- ✡ 簡単な数学も必要に応じて使います。

講義概要



（テキスト）・（参考文献）

- ✡（テキスト/ 配布プリント）・（参考文献/『なっとくする相対性理論』松田 卓也、二間瀬 敏史 著・講談社）

評価方法

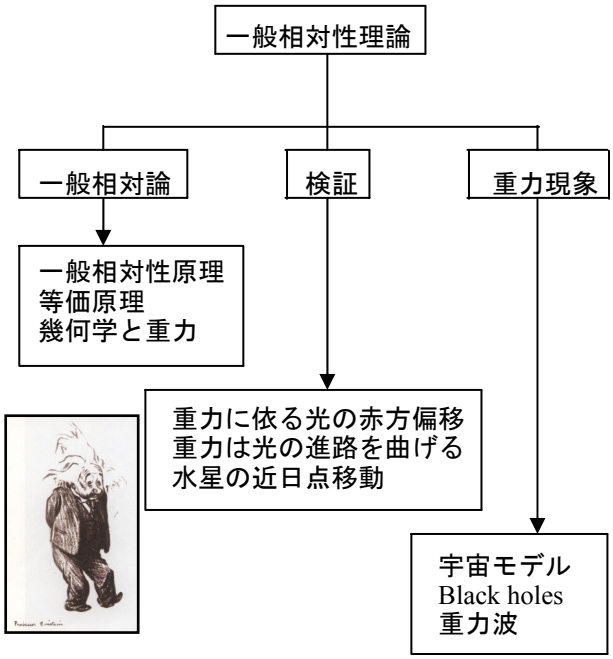
- ✡ 主に、**試験**（授業・配布プリント・宿題から出題）と毎時間提出の**評価用紙**（宿題・発言）です。

	自然・環境研究Ⅵ（宇宙論 b）	担当者	福井 尚生

講義目的

- ☯『宇宙論 b』は上記『宇宙論 a』の知識を前提に Einstein の「一般相対性理論」を学びます。
- ☯“一般”化する事により構築された「一般相対性理論」はその後の観測で**検証**され、**重力**をより深く理解することになりました。そこで応用として、重力が纏わる現象を最新の成果・話題（Dark energy など）も交えながら学びます。
- ☯ 発想を転換して得られた独自の考えは、**用心深く実践**する必要があります。（相対性）理論構築への道程の話を通して、自分の考えの構築に必死になって取り組んだ挙句実践する工夫が不可欠なことに思い至って欲しいと思います。
- ☯ 視聴覚教材を出来るだけ利用します。
- ☯ 簡単な数学も必要に応じて使います。

講義概要



（テキス）・（参考文献）

- ☯（テキスト/ 配布プリント）・（参考文献/『なっとくする宇宙論』二間瀬 敏史 著・講談社）

評価方法

- ☯ 主に、**試験**（授業・配布プリント・宿題から出題）と毎時間提出の**評価用紙**（宿題・発言）です。

	自然・環境研究Ⅶ（天文学 a）	担当者	福井 尚生

講義目的

✿ 我々は太陽系惑星の一つ地球に住んでいます。諸環境のお蔭で地球上では他の惑星とは異なり、生物が誕生（？）・進化し人類まで奇跡的に辿り着きました。「太陽系」の**起源**を知れば奇跡の訳が見えてくるかも知れません。

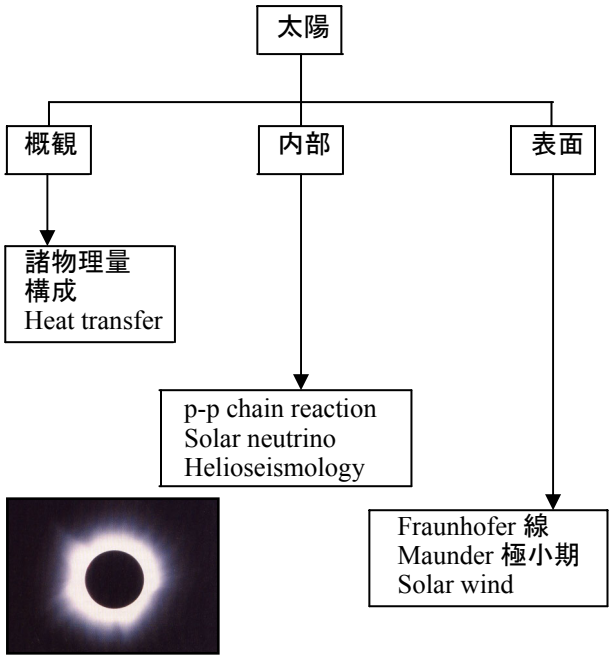
✿『地球環境論 a』（太陽系）では、天体としての地球を取り巻く環境を考察するに当たり、地球にとって掛け替えの無い恒星 **The Sun** を天文学の立場から学びます。What is the Sun?

✿ 主体的に必死に勉強して得た知識をもとに、自然の一員としての宇宙船「地球号」の進路を自ら考え、勇気をもって操縦・**実行**して下さい。

✿ 視聴覚教材を出来るだけ利用します。

✿ 簡単な数学も必要に応じて使います。

講義概要



（テキスト）・（参考文献）

✿（テキスト/ 配布プリント）・（参考文献/『教養のための天文学講義』米山 忠興 著・丸善）

評価方法

✿ 主に、**試験**（授業・配布プリント・宿題から出題）と毎時間提出の**評価用紙**（宿題・発言）です。

	自然・環境研究Ⅷ（天文学 b）	担当者	福井 尚生

講義目的

✷ 地球が宇宙を司る自然法則に支配されていることは他の太陽系天体と同じです。我々の存在を可能にしている他の太陽系天体からの違いは何でしょう？地球が The Goldilocks planet と呼ばれる理由がここにあります。

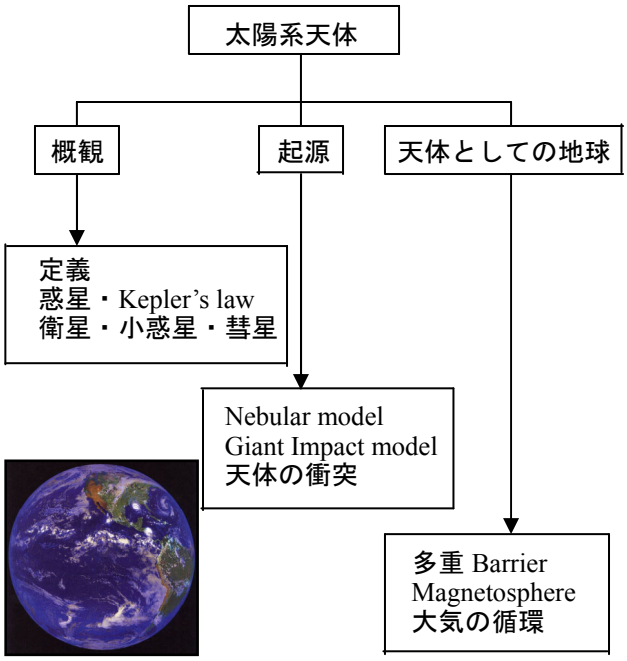
✷『地球環境論 b』（太陽系）では、『地球環境論 a』の知識を前提に **The Solar system**（除・太陽）を地球環境に関わりを持たせて天文学の立場から学びます。The Solar system = The Sun's family

✷ 主体的に必死に勉強して得た知識をもとに、自然の一員としての宇宙船「地球号」の進路を自ら考え、勇気をもって操縦・**実行**して下さい。

✷ 視聴覚教材を出来るだけ利用します。

✷ 簡単な数学も必要に応じて使います。

講義概要



（テキスト）・（参考文献）

✷（テキスト/ 配布プリント）・（参考文献/『太陽系の果てを探る』渡部 潤一、布施 哲治 著・東京大学出版

評価方法

✷ 主に、**試験**（授業・配布プリント・宿題から出題）と毎時間提出の**評価用紙**（宿題・発言）です。

	多言語情報処理研究Ⅰ（コンピュータと言語）	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。 本講義では、（１）コンピュータと情報処理に関する基礎知識（２）コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み（３）コンピュータによる多言語処理の技術と応用法などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。 本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組み、および、複数の言語を活用するための言語資源（辞書、シソーラス、コーパス、WEB）の使い方について学びます。さらに、実習を通じて、自動翻訳システムや質問応答システムの活用法などの理解を深めます。	1　講義の概要と目標、多言語情報処理の目的 2　コンピュータの世代論と情報処理 3　コンピュータの構成 4　ソフトウェアの役割、体系と種類 5　オペレーティングシステム（OS） OS の基礎概念、OS の役割と原理 6　コンピュータ言語 コンピュータ言語の分類と目的 7　コンピュータによる日本語・英語の情報処理 8　多言語処理のための言語資源―辞書、類語辞書、コーパス、WEB 9　多言語間自動翻訳の仕組み 10　質問応答システムと自動翻訳ソフトの演習 11　オンライン多言語学習の演習 12　インターネット上の多言語処理技術
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中指示するテキスト・参考文献を使用してください。	レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

2007年度

国際教養学部「カテゴリーＶ」クラス指定科目シラバス

（２００７年度入学生用）

	スポーツ・レクリエーション（学生交流支援プログラム） 国際教養学部指定クラス	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
［講義の目標］ 身体活動を通じて、国際教養学部生相互の交流を促進し、合わせて、目の前に展開する事象への多面的な理解と適切な対応の選択、集団行動での基本的なルールを尊重した上で個人個人が積極的に授業参加する態度の育成、生涯に渡る健康観の構築、定期的に運動する習慣の獲得を目標とする。 ［講義概要］ ３クラスに分かれて３人の担当者の授業を（３回・４回・４回）受ける。このクラスは、松原→和田→小山 松原はフットサルを主として、荒天時にはバスケットボールを行う予定。集団で行う球技なのでお互いに協力して役割を担う。基本的なことから試合までをビルドアップして、ゲームを楽しむ。 ［受講者への要望］ フェアな態度、団体行動、試してみる勇気。 各自で実技にふさわしいシューズと服装を準備すること。	1. オリエンテーション（教室） 受講票の作成（要写真）　授業実施上の諸注意 トレーニングルームの講習と登録（要学生証） 2. グラウンドにて実技開始 フットサルの練習とゲーム①―１ 3. フットサルの練習とゲーム①―２ 4. フットサルの練習とゲーム①―３ 5. グループゲームとアウトドアクッキングの計画 6. アウトドアクッキング 7. ウォークラリー 8. ペタンク大会 注意:荒天時には室内で行い内容変更がある予定 9. テニスの全般的説明、グループ編成 グリップと基本のストローク 10. グループ別に基本技術の練習 （ストローク・ボレー・サービス＆リターン） 11. ダブルスゲームの説明と実践① 12. ダブルスゲームの説明と実践② 注意：荒天時には卓球の予定
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	毎時間の出欠席、受講態度などを総合して評価する。

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

	スポーツ・レクリエーション（学生交流支援プログラム） 国際教養学部指定クラス	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
［講義の目標］ 身体活動を通じて、国際教養学部生相互の交流を促進し、合わせて、目の前に展開する事象への多面的な理解と適切な対応の選択、集団行動での基本的なルールを尊重した上で個人個人が積極的に授業参加する態度の育成、生涯に渡る健康観の構築、定期的に運動する習慣の獲得を目標とする。 ［講義概要］ ３クラスに分かれて３人の担当者の授業を（３回・４回・４回）受ける。このクラスは、和田→小山→松原 和田はアウトドア・レクリエーションを主として、荒天時には室内で行う予定。 **［受講者への要望］** フェアな態度、団体行動、試してみる勇気。 各自で実技にふさわしいシューズと服装を準備すること。	1. オリエンテーション（教室） 受講票の作成（要写真）　授業実施上の諸注意 トレーニングルームの講習と登録（要学生証） グループゲームとアウトドアクッキングの計画 2. アウトドアクッキング 3. ウォークラリー 4. ペタンク大会 5. テニスの全般的説明、グループ編成 グリップと基本のストローク 6. グループ別に基本技術の練習 （ストローク・ボレー・サービス＆リターン） 7. ダブルスゲームの説明と実践① 8. ダブルスゲームの説明と実践② 注意：荒天時には卓球の予定 9. フットサルの練習とゲーム① 10. フットサルの練習とゲーム② 11. フットサルの練習とゲーム③ 12. フットサルの練習とゲーム④ 注意：荒天時にはバスケットボールの予定
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	毎時間の出欠席、受講態度などを総合して評価する。

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

	スポーツ・レクリエーション（学生交流支援プログラム） 国際教養学部指定クラス	担当者	小山　さなえ

講義目的、講義概要	授業計画
［講義の目標］ 身体活動を通じて、国際教養学部生相互の交流を促進し、合わせて、目の前に展開する事象への多面的な理解と適切な対応の選択、集団行動での基本的なルールを尊重した上で個人個人が積極的に授業参加する態度の育成、生涯に渡る健康観の構築、定期的に運動する習慣の獲得を目標とする。 ［講義概要］ ３クラスに分かれて３人の担当者の授業を（３回・４回・４回）受ける。このクラスは、小山→松原→和田 小山の授業は、テニスの基本技術を習得して、マナー・ルール・審判法などを学び、生涯にわたってテニスが楽しめるような基礎を養う。特に、ダブルスの試合方法について理解し自ら実践できるように、ルールの理解と共に審判法についても理解する。 ［受講者への要望］ 自己の健康管理を含めた出席を重視するので、体調を整えて授業に参加すること。テニスにふさわしい服装、シューズを用意すること。 ＊雨天の場合はアリーナで卓球を行います。	1. オリエンテーション（教室） 受講票の作成（要写真）　授業実施上の諸注意 トレーニングルームの講習と登録（要学生証） 2. テニスの全般的説明、グループ編成 グリップと基本のストローク 3. グループ別に基本技術の練習 （ストローク・ボレー・サービス＆リターン） 4. ダブルスゲームの説明と実践 5. フットサルの練習とゲーム① 6. フットサルの練習とゲーム② 7. フットサルの練習とゲーム③ 8. フットサルの練習とゲーム④ 注意：荒天時にはバスケットボールの予定 9. グループゲームとアウトドアクッキングの計画 10. アウトドアクッキング 11. ウォークラリー 12. ペタンク大会 注意：荒天時には室内で行い、内容変更がある予定
テキスト、参考文献	**評価方法**
「テニス基本の基本」佐藤雅幸著　学習研究所	毎時間の出欠席、受講態度などを総合して評価する。

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

シラバス 国際教養学部

2007年 4 月 1 日発行

獨協大学教務部

〒340 - 0042 埼玉県草加市学園町1－1
電　話　048 - 946 - 1664

※この冊子は、再生紙を使用しています。

DOKKYO UNIVERSITY

学　　科	学年	氏　　名
学科	年	